

(様式第 10)

金医大病管第 25 号
平成 28 年 10 月 4 日

厚生労働大臣

殿

学校法人 金沢医科大学
理事長 竹越 襄 (印)

金沢医科大学病院の業務に関する報告について

標記について、医療法（昭和 23 年法律第 205 号）第 12 条の 3 第 1 項及び医療法施行規則（昭和 23 年厚生省令第 50 号）第 9 条の 2 の 2 の第 1 項の規定に基づき、平成 27 年度の業務に関して報告します。

記

1 開設者の住所及び氏名

住 所	〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地
氏 名	学校法人 金沢医科大学

(注) 開設者が法人である場合は、「住所」欄には法人の主たる事務所の所在地を、「氏名」欄には法人の名称を記入すること。

2 名 称

金沢医科大学病院

3 所在の場所

〒920-0293 石川県河北郡内灘町字大学 1 丁目 1 番地 電話 (076) 286 - 3511

4 診療科名

4-1 標榜する診療科名の区分

<input checked="" type="radio"/> 1 医療法施行規則第六条の四第一項の規定に基づき、十六診療科名すべてを標榜 <input type="radio"/> 2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定により読み替えられた同条第一項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として、十以上の診療科名を標榜

(注) 上記のいずれかを選択し、番号に○印を付けること。

4-2 標榜している診療科名

(1) 内科

内科	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
内科と組み合わせた診療科名等 1 呼吸器内科 2 消化器内科 3 循環器内科 4 神経内科 5 内視鏡内科 6 腫瘍内科	
診療実績	

(注) 1 「内科」欄及び「内科と組み合わせた診療科名等」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「リウマチ科」及び「アレルギー科」についても、「内科と組み合わせた診療科等」欄に記入すること。

(注) 3 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(2) 外科

外科	(有) ・ 無
外科と組み合わせた診療科名 1 形成外科 2 呼吸器外科 3 心臓血管外科 4 小児外科	
診療実績	

(注) 1 「外科」欄及び「外科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「診療実績」欄については、医療法施行規則第六条の四第三項の規定により、他の診療科で医療を提供している場合に記入すること。

(3) その他の標榜していることが求められる診療科名

(1) 精神科	(2) 小児科	(3) 整形外科	(4) 脳神経外科	(5) 皮膚科	(6) 泌尿器科
7 産婦人科	(8) 産科	(9) 婦人科	(10) 眼科	(11) 耳鼻咽喉科	(12) 放射線科
13 放射線診断科	(14) 放射線治療科	(15) 麻酔科	(16) 救急科		

(注) 標榜している診療科名の番号に○印を付けること。

(4) 歯科

歯科	(有) ・ 無
歯科と組み合わせた診療科名 1 小児歯科 2 矯正歯科	
歯科の診療体制	

(注) 1 「歯科」欄及び「歯科と組み合わせた診療科名」欄については、標榜している診療科名について記入すること。

(注) 2 「歯科の診療体制」欄については、医療法施行規則第六条の四第五項の規定により、標榜している診療科名として「歯科」を含まない病院については記入すること。

(5) (1)～(4)以外でその他に標榜している診療科名

1 リハビリテーション科 2 病理診断科

(注) 標榜している診療科名について記入すること。

5 病床数

精神	感染症	結核	療養	一般	合計
36 床	床	床	床	799 床	835 床

6 医師、歯科医師、薬剤師、看護師及び准看護師、管理栄養士その他の従業者の員数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

職 種	常 勤	非常勤	合 計	職 種	員 数	職 種	員 数
医 師	287 人	112 人	355.1人	看 護 補 助 者	120 人	診療エックス線技師	人
歯 科 医 師	8 人	1 人	8.1人	理 学 療 法 士	33 人	臨床検査技師	63人
薬 剤 師	54 人	人	54 人	作 業 療 法 士	17 人	衛生検査技師	人
保 健 師	3 人	2 人	4.7人	視 能 訓 練 士	9 人	そ の 他	人
助 産 師	23 人	1 人	23.8人	義 肢 装 具 士	人	あん摩マッサージ指圧師	人
看 護 師	733 人	36 人	759.9人	臨 床 工 学 士	14 人	医療社会事業従事者	4人
准 看 護 師	2 人	3 人	3.5人	栄 養 士	4 人	その他の技術員	27人
歯科衛生士	8 人	人	8 人	歯 科 技 工 士	3 人	事 務 職 員	97人
管理栄養士	16 人	人	16 人	診 療 放 射 線 技 師	34 人	そ の 他 の 職 員	56人

- (注) 1 報告書を提出する年度の 10 月 1 日現在の員数を記入すること。
 2 栄養士の員数には、管理栄養士の員数は含めないで記入すること。
 3 「合計」欄には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 2 位を切り捨て、小数点以下 1 位まで算出して記入すること。それ以外の欄には、それぞれの員数の単純合計員数を記入すること。

7 専門の医師数

(平成 28 年 10 月 1 日現在)

専門医名	人 数	専門医名	人 数
総合内科専門医	21 人	眼 科 専 門 医	5 人
外 科 専 門 医	21 人	耳 鼻 咽 喉 科 専 門 医	9 人
精 神 科 専 門 医	5 人	放 射 線 科 専 門 医	7 人
小 児 科 専 門 医	10 人	脳 神 経 外 科 専 門 医	6 人
皮 膚 科 専 門 医	5 人	整 形 外 科 専 門 医	14 人
泌 尿 器 科 専 門 医	6 人	麻 酔 科 専 門 医	10 人
産 婦 人 科 専 門 医	6 人	救 急 科 専 門 医	6 人
		合 計	131 人

- (注) 人数には、非常勤の者を当該病院の常勤の従事者の通常の勤務時間により常勤換算した員数と常勤の者の員数の合計を小数点以下 1 位を切り捨て、整数で算出して記入すること。

8 管理者の医療に係る安全管理の業務の経験

管理者名 (松本 忠美) 任命年月日 平成 26 年 4 月 1 日

医療安全対策部長	平成 17 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日
医療安全対策委員会委員長	平成 26 年 4 月 1 日～現在に至る
医療問題検討委員会委員長	平成 26 年 4 月 1 日～現在に至る
医療事故調査委員会委員長	平成 26 年 4 月 1 日～現在に至る

9 前年度の平均の入院患者、外来患者及び調剤の数

歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科の前年度の平均の入院患者及び外来患者の数

	歯科等以外	歯科等	合計
1日当たり平均入院患者数	588.4 人	3.0 人	591.4 人
1日当たり平均外来患者数	901.6 人	33.7 人	935.3 人
1日当たり平均調剤数	入院 652.9 剤	外来 225.2 剤	
必要医師数			118.6 人
必要歯科医師数			2.1 人
必要薬剤師数			20 人
必要(准)看護師数			330 人

- (注)1 「歯科等」欄には、歯科、矯正歯科、小児歯科及び歯科口腔外科を受診した患者数を、「歯科等以外」欄にはそれ以外の診療料を受診した患者数を記入すること。
- 2 入院患者数は、年間の各科別の入院患者延数(毎日の24時現在の在院患者数の合計)を暦日で除した数を記入すること。
- 3 外来患者数は、年間の各科別の外来患者延数をそれぞれ病院の年間の実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 4 調剤数は、年間の入院及び外来別の調剤延数をそれぞれ暦日及び実外来診療日数で除した数を記入すること。
- 5 必要医師数、必要歯科医師数、必要薬剤師数及び必要(准)看護師数については、医療法施行規則第二十二條の二の算定式に基づき算出すること。

10 施設の構造設備

施設名	床面積	主要構造	設 備 概 要			
集中治療室	793.89 m ²	鉄筋コンクリート	病床数	20 床	心電計	(有)・無
			人工呼吸装置	(有)・無	心細動除去装置	(有)・無
			その他の救急蘇生装置	(有)・無	ペースメーカー	(有)・無
無菌病室等	[固定式の場合] 床面積 295.5 m ² [移動式の場合] 台数 8 台		病床数	40 床		
医薬品情報管理室	[専用室の場合] 床積 70.5 m ² [共用室の場合] 共用する室名 なし					
化学検査室	180 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 臨床化学自動分析装置			
細菌検査室	132 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 微生物感受性分析装置			
病理検査室	251 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 全自動中性緩衝ホルマリン固定液作製装置、迅速自動固定包埋装置、密閉式自動固定包埋装置、凍結マイクローム、安全キャビネット、自動染色装置、自動免疫染色装置、顕微鏡			
病理解剖室	239 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備) 感染症防止対策用解剖台、臓器撮影装置、体重計付ストレッチャー			
研究室	7,906 m ²	鉄筋コンクリート	(主な設備)			
講義室	560 m ²	鉄筋コンクリート	室数	2 室	収容定員	420 人
図書室	2,143 m ²	鉄筋コンクリート	室数	11 室	蔵書数	201,347 冊程度

- (注) 1 主要構造には、鉄筋コンクリート、簡易耐火、木造等の別を記入すること。
- 2 主な設備は、主たる医療機器、研究用機器、教育用機器を記入すること。

11 紹介率及び逆紹介率の前年度の平均値

算定期間		平成27年4月1日～平成28年3月31日	
紹介率	56.6 %	逆紹介率	54.5 %
算出根拠	A：紹介患者の数	9,683 人	
	B：他の病院又は診療所に紹介した患者の数	10,266 人	
	C：救急用自動車によって搬入された患者の数	983 人	
	D：初診の患者の数	18,834 人	

(注) 1 「紹介率」欄は、A、Cの和をDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

2 「逆紹介率」欄は、BをDで除した数に100を乗じて小数点以下第1位まで記入すること。

3 A、B、C、Dは、それぞれの前年度の延数を記入すること。

12 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
経過措置中				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

13 監査委員会の委員名簿及び委員の選定理由の公表の状況

委員名簿の公表の有無	有・無
委員の選定理由の公表の有無	有・無
公表の方法	
経過措置中	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

1 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
多焦点眼内レンズを用いた水晶体再建術	38人
硬膜外自家血注入療法	2人
多血小板血漿を用いた難治性皮膚潰瘍の治療	5人
LDLアフェレシス療法	0人
前眼部三次元画像解析	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第二各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

2 承認を受けている先進医療の種類(注1)及び取扱患者数

先進医療の種類	取扱患者数
術後のホルモン療法及びS-1内服投与の併用療法	11人
腹腔鏡下センチネルリンパ節生検	0人
インターフェロン α 皮下投与及びジドブジン経口投与の併用療法	0人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人
	人

(注) 1 「先進医療の種類」欄には、厚生労働大臣の定める先進医療及び施設基準(平成二十年厚生労働省告示第百二十九号)第三各号に掲げる先進医療について記入すること。

(注) 2 「取扱患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

3 その他の高度の医療

医療技術名	口唇口蓋裂に対するチーム医療	取扱患者数	120 人
当該医療技術の概要 (形成外科) チームを組み乳児期の口唇初回手術から高校生での修正術まで、一貫治療を行っている。			
医療技術名	乳癌に対するチーム医療	取扱患者数	40 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 、乳癌の根治手術から乳房の再建手術まで、患者のQOLを重視した乳癌治療を行っている			
医療技術名	頭頸部癌に対するチーム医療	取扱患者数	15 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 手術から腫瘍切除後の再建手術まで、患者のQOLを重視した頭頸部癌治療を行っている。			
医療技術名	下肢難治性潰瘍に対するチーム医療	取扱患者数	45 人
当該医療技術の概要 (形成外科) 創傷治療を行い、下肢を可能な限り温存治療することで患者のQOLの向上に努めている。			
医療技術名	MRIとPETの両者の結果の解析による肺腫瘍の良悪性および病期の診断	取扱患者数	50 人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科) 肺腫瘍の非観血的診断に関してPET-CTは広く応用されているが、隣接臓器浸潤の診断以外の目的でMRIを併用することは少ない。我々の研究では、MRIを併用することにより良悪性の診断のみならず、リンパ節転移の正診率が著明に向上することが判明した。非侵襲的な検査としてきわめて有用な検査となっている。			
医療技術名	全身MRIによる原発性肺癌の血行性転移の検索	取扱患者数	10 人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科) 全身MRIによる病巣の質的診断は、現在端緒についたところであるが、我々の研究によれば、原発性肺癌の血行性転移の発見にも期待が持てることが示唆された。これからさらに症例を重ねて検討を続ける予定である。			
医療技術名	巨大ブラに対する胸腔鏡下ブラ焼灼縮小後の切除術	取扱患者数	5 人
当該医療技術の概要 (呼吸器外科) 巨大ブラに対する胸腔鏡手術において、視野が限られるために最適の切除線を作成することは困難である。我々は巨大ブラのブラ壁を焼灼・縮小させることにより、常に適切な切除線を得ることに成功した。			
医療技術名	エコーガイド下肺腫瘍生検・肺腫瘍吸引生検	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要 (呼吸器内科) 通常の内視鏡下または透視下ではアプローチが困難な症例に対して、エコーガイド下に腫瘍の部位を確認して生検または経気道吸引生検を行う。			
医療技術名	胸腔鏡下肺・胸膜生検	取扱患者数	12人
当該医療技術の概要 (呼吸器内科) 局麻で胸腔鏡下に胸腔を直接観察し、必要に応じて肺・胸膜生検を行う。			
医療技術名	中高度子宮頸部上皮内腫瘍(CIN)に対する薬物治療	取扱患者数	300人
当該医療技術の概要 (産科婦人科) 前がん状態のCIN3は円錐状切除術が基本である。しかし、円錐状切除術は将来の妊娠に問題が起こりうる。当科では、高度なコルポスコピー診断技術による正確な診断のもとにCIN2、CIN3に対して組織侵襲の少ない薬物治療を試みている。			

医療技術名	顎矯正手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要（歯科口腔科） 顎顔面頭蓋の成長・発育異常による上下の骨格の不調和に歯の位置の異常が加わることにより、重度の咬み合わせの異常と顔面の変形を呈する顎変形症に対して、歯科矯正治療と外科的な顎骨の骨切り手術を併用した外科的矯正手術を行っています。治療の対象は上顎前突症、下顎前突症、上下顎前突症、上顎後退症、下顎後退症、開咬症、顔面非対称です。			
医療技術名	習慣性顎関節脱臼に対する局所麻酔下顎関節形成術	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要（歯科口腔科） 高度の認知症や高齢者の有病者などに対し、全身麻酔下における負担を軽減させるために局所麻酔下において習慣性顎関節脱臼の治療法として関節結節（あるいはあわせて下顎頭の上部）を削除する方法である。			
医療技術名	コンピューター支援による顎骨再建術	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要（歯科口腔科） 顎骨腫瘍などにより下顎骨を切除した際の金属プレートによる即時再建の際に、術前画像所見からコンピューターにより作成した3次元模型により、術前に再建金属プレートの形態調整を行い、手術時間を大幅に短縮する方法である。			
医療技術名	ロータブレーター	取扱患者数	83人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 石灰化病変を有する狭心症や心筋梗塞の症例に対して、従来のPOBAやステントでは治療成績は良好ではない。ロータブレーターは石灰化病変やびまん性病変など、硬い病変に対する治療に有効である。現在、ロータブレーターとDESを併用し、石灰化病変や複雑病変を有する症例に対しても治療成績は良好である。			
医療技術名	冠血流予備量比 (FFR,iFR)	取扱患者数	50人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 冠動脈病変における狭窄程度が、どの程度の心筋還流血流量を阻害しているかを調べ、中等度病変におけるPCIの適応決定に役立つ。			
医療技術名	光干渉断層撮影 (OCT,OFDI)	取扱患者数	65人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 冠動脈内にイメージングワイヤー（近赤外線）を挿入し、血管内超音波 (IVUS) の約10倍の解像度の画像が得られる。IVUSでは、評価困難な血栓、非薄化した不安定プラークの鑑別や石灰化の厚さを知ること、その後のPCI手技を安全に行う上で、重要な物である。			
医療技術名	心房細動に対するカテーテルアブレーション	取扱患者数	123人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 本症例に対して高周波を用いてカテーテルによる肺静脈隔離術、complex fractionated atrial electrogram (CFAE) を指標とする左右心房焼灼術、線状焼灼術などを病状に応じて組み合わせることで、心房細動を洞調律化し、良好な洞調律維持を図っている。			
医療技術名	心臓再同期療法 (CRT)	取扱患者数	16人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 慢性心不全の悪循環を断ち切り、その予後や生活の質を改善させる治療法がCRTである。通常のペースメーカーと同様にリードを右室心尖部に留置し、それに加えて左室側壁にもリードを留置することで、両方から左室を挟み込むようにペーシングし、収縮タイミングの時相のズレを解消させる。			
医療技術名	ループレコーダー	取扱患者数	5人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 原因不明の失神を繰り返す患者で、特に心原性失神が強く疑われ、Holter心電図や電気生理学的検査においても確定診断に至らない場合に、原因究明を目的として、皮下に植え込み、皮下心電図を記録・保存することができる心電計である。3年間連続で記録することができる。			
医療技術名	経皮的中隔心筋焼灼術 (PTSMA)	取扱患者数	3人
当該医療技術の概要（心血管カテーテル治療科、循環器内科） 薬物治療抵抗性の閉塞性肥大型心筋症に対して、カテーテルを使用して純エタノールにより閉塞責任中隔心筋を焼灼壊死させ、圧格差を減少させる治療法です。			

医療技術名	薬理遺伝学に基づくワルファリンの個別化医療	取扱患者数	25人
当該医療技術の概要（循環器内科）			
ワルファリンは、至適投与量の個人差が大きい。これに関与する二つの高頻度遺伝子多型(CYP2C9とVKORC1)を調べ、その結果による初期投与量設定で、より早期の至適治療域到達が可能となる。また薬効変動要因である食事性ビタミンKに影響されやすい個人を特定し、それに基づく食事指導を行い、抗凝固療法の安定化を図る。			
医療技術名	早期胃癌に対する、ICG蛍光法センチネルリンパ節誘導機能温存根治手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要（一般・消化器外科）			
ESD適応外の早期胃癌には、通常リンパ節郭清を伴う胃切除術が行われる。しかしセンチネルリンパ節生検で転移陰性と診断されれば、郭清が省略でき、胃切除範囲の縮小が可能となる。早期胃癌手術適応例を対象に、ICG蛍光法を用いてセンチネルリンパ節生検を行い愁訴や障害の少ない機能温存根治手術を提供している。			
医療技術名	高度進行胃癌・根治切除困難胃癌に対する術前化学療法と胃癌根治手術	取扱患者数	20人
当該医療技術の概要（一般・消化器外科）			
高度な局所進展や広範なリンパ節転移のために根治切除が困難な胃癌症例の手術治療成績は不良である。しかし近年、切除不能胃癌であっても化学療法で根治切除可能な状態に持ち込める症例が散見される。根治切除困難な胃癌を対象に、外科切除に先立って術前化学療法を行い、根治切除率と生命予後の改善を目指している。			
医療技術名	局所進行膵癌に対する術前放射線化学療法と根治手術	取扱患者数	15人
当該医療技術の概要（一般・消化器外科）			
膵臓癌は最も予後不良な癌の一つで、特に手術単独では殆ど根治的治療は望めない。局所進行あるいはボーダーライン切除不能な膵臓癌に対して、術前放射線化学療法を施行し、その後に根治手術を組み合わせる集学的治療を施行している。			
医療技術名	髄液細胞のフローサイトメトリーを用いた炎症性疾患の診断と治療	取扱患者数	101人
当該医療技術の概要（神経内科）			
中枢神経内の炎症や免疫の状態は、通常髄液のルーチン検査として細胞数や蛋白、IgGの値から推定して病態を評価せざるを得ないのが現状である。しかし、髄液採取に際して一部の検体を低温下、低速遠心をかけて髄液細胞を回収し、その細胞の表面および内部の抗原をCD4、CD8、CD25、CD29、CD56、CCR3、CCR4、CCR5、CXCR3等に対するモノクローナル抗体で染色することにより、どのような役割を担った白血球が髄液内で増加あるいは減少しているかを採取同日に知ることが可能である。この方法により、中枢神経内で起こっている炎症性病態を的確に把握し、正しい診断と治療選択肢に至ることを可能にしている。			
医療技術名	自己免疫性辺縁系脳炎の診断と治療	取扱患者数	100人
当該医療技術の概要（神経内科）			
抗NMDA受容体抗体が介在する自己免疫性脳炎は、若年女性に急性の経過で精神症状、けいれん重積、意識障害、呼吸不全などの重篤な症状を呈するもので、卵巣奇形腫が潜在することが多く、早期に腫瘍切除および血漿交換や免疫療法を行えば、症状寛解に至ることが多い。診断には、患者髄液・血清中の抗NMDA受容体抗体を検出することが重要である。我々は、NMDA受容体NR1/NR2ヘテロマーを用いたcell-based assay法による抗NMDA受容体抗体の検出系を確立し、本邦で唯一の抗体検査可能施設であることから、全国諸施設からの抗体診断依頼を受けており、その結果を速やかに診療現場に還元して、適切な加療をガイドしている。			
医療技術名	低侵襲寛骨臼骨切り術	取扱患者数	18人
当該医療技術の概要（整形外科）			
寛骨臼形成不全股に対する手術である。三次元テンプレートにより骨盤に欠損ができないように設計し、手術で再現する術式。7cmの小皮切および早期リハビリ、早期社会復帰が可能になった低侵襲手術である。			
医療技術名	広範囲肩腱板断裂に対するリバース型人工肩関節全置換術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要（整形外科）			
広範囲肩腱板断裂は変形性肩関節症を併発することもあり強い痛みと機能障害を呈する。このような再建不可能な肩腱板広範囲断裂を認めている症例に対してリバース型人工肩関節全置換術を施行している。本システムを用いることにより肩関節可動域の向上や疼痛の改善に期待が持てる。			
医療技術名	成人脊柱変形に対する矯正固定術	取扱患者数	4人
当該医療技術の概要（整形外科）			
成人での変性に伴う後側弯で、バランス不良によっておこる体幹の著しい機能低下、呼吸障害、摂食障害をきたすような症例に対し、本来の脊柱アライメントに整えることは重要であり、前方、後方からのアプローチを駆使した手術を行っている。本年度、インプラント設置の精度を高めるためや低侵襲手術を目的に、O-arm(術中CTナビゲーションシステム)を購入し、運用を開始した。			

医療技術名	再発、難治性甲状腺癌症例に対する集学的治療	取扱患者数	2人
当該医療技術の概要（頭頸部・甲状腺外科） 甲状腺癌において希に再発、転移を繰り返し生命予後に影響する症例を対象に拡大手術加療で局所制御をはかり、更に放射線治療、分子標的薬治療等を合わせて生存期間の延長を目指す			
医療技術名	Navigation guide下ハイブリッド下垂体手術	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要（脳神経外科） 事前に撮影した造影MR、MRA及び造影CTをSTAELTH Navigationでfusionさせ、Navigation guide下に内視鏡と顕微鏡を自在に用いて経鼻的に間脳下垂体腫瘍を摘出する手術。			
医療技術名	脳脊髄液減少症に対する硬膜外自家血注入療法	取扱患者数	0人
当該医療技術の概要（麻酔科） 脳脊髄液減少（漏出）症患者に対し、硬膜外腔へ患者の自家血を注入する治療法であり、先進医療に認定されている（平成28年度に保険収載された）。			
医療技術名	希少メンデル遺伝性疾患の遺伝カウンセリングと遺伝子診断	取扱患者数	35人
当該医療技術の概要（遺伝子医療センター） マルファン症候群、アラジール症候群、レット症候群、結節性硬化症などの疾患責任遺伝子が判明しているメンデル遺伝性疾患に対し、遺伝カウンセリングを行い、本人または家族の同意を得たうえで遺伝子検査を実施。検査結果を再び遺伝カウンセリングを実施し説明。紹介医と連携し患者の医療に役立てている。			
医療技術名	微細染色体構造異常の遺伝カウンセリングとDNAマイクロアレイ検査	取扱患者数	9人
当該医療技術の概要（遺伝子医療センター） 多発先天奇形を対象に通常の染色体分析（G分染法）では診断できない微細染色体構造異常を、DNAマイクロアレイ検査を用いて診断している。診断の前後に遺伝カウンセリングを行い、患者家族に説明を行っている。また検査により合併症の予測が可能となる場合もあり、主治医と連携して治療にあたっている。			

（注）1 当該医療機関において高度の医療と判断するものが他にあれば、前年度の実績を記入すること。

（注）2 医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院として十以上の診療科名を標榜する病院については、他の医療機関での実施状況を含め、当該医療技術が極めて先駆的であることについて記入すること（当該医療が先進医療の場合についても記入すること）。

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
1	球脊髄性筋萎縮症	3	56	ベーチェット病	39
2	筋萎縮性側索硬化症	18	57	特発性拡張型心筋症	23
3	脊髄性筋萎縮症	2	58	肥大型心筋症	7
4	原発性側索硬化症	0	59	拘束型心筋症	0
5	進行性核上性麻痺	9	60	再生不良性貧血	18
6	パーキンソン病	120	61	自己免疫性溶血性貧血	0
7	大脳皮質基底核変性症	10	62	発作性夜間ヘモグロビン尿症	0
8	ハンチントン病	0	63	特発性血小板減少性紫斑病	37
9	神経有棘赤血球症	0	64	血栓性血小板減少性紫斑病	0
10	シャルコー・マリー・トウス病	0	65	原発性免疫不全症候群	2
11	重症筋無力症	45	66	IgA腎症	21
12	先天性筋無力症候群	0	67	多発性嚢胞腎	7
13	多発性硬化症／視神経脊髄炎	65	68	黄色靭帯骨化症	10
14	慢性炎症性脱髄性多発神経炎／多巣性運動ニューロパチー	10	69	後縦靭帯骨化症	116
15	封入体筋炎	0	70	広範脊柱管狭窄症	3
16	クドウ・深瀬症候群	0	71	特発性大腿骨頭壊死症	70
17	多系統萎縮症	29	72	下垂体性ADH分泌異常症	6
18	脊髄小脳変性症(多系統萎縮症を除く。)	48	73	下垂体性TSH分泌亢進症	3
19	ライソゾーム病	1	74	下垂体性PRL分泌亢進症	34
20	副腎白質ジストロフィー	1	75	クッシング病	11
21	ミトコンドリア病	4	76	下垂体性ゴナドトロピン分泌亢進症	1
22	もやもや病	22	77	下垂体性成長ホルモン分泌亢進症	29
23	プリオン病	0	78	下垂体前葉機能低下症	65
24	亜急性硬化性全脳炎	0	79	家族性高コレステロール血症(ホモ接合体)	0
25	進行性多巣性白質脳症	0	80	甲状腺ホルモン不応症	0
26	HTLV-1関連脊髄症	0	81	先天性副腎皮質酵素欠損症	4
27	特発性基底核石灰化症	0	82	先天性副腎低形成症	0
28	全身性アミロイドーシス	4	83	アジソン病	0
29	ウルリッヒ病	0	84	サルコイドーシス	56
30	遠位型ミオパチー	0	85	特発性間質性肺炎	19
31	ベスレムミオパチー	0	86	肺動脈性肺高血圧症	6
32	自己貪食空胞性ミオパチー	0	87	肺静脈閉塞症／肺毛細血管腫症	0
33	シュワルツ・ヤンペル症候群	0	88	慢性血栓塞栓性肺高血圧症	10
34	神経線維腫症	14	89	リンパ管筋腫症	1
35	天疱瘡	3	90	網膜色素変性症	21
36	表皮水疱症	3	91	バッド・キアリ症候群	0
37	膿疱性乾癬(汎発型)	5	92	特発性門脈圧亢進症	0
38	スティーヴンス・ジョンソン症候群	0	93	原発性胆汁性肝硬変	37
39	中毒性表皮壊死症	0	94	原発性硬化性胆管炎	2
40	高安動脈炎	20	95	自己免疫性肝炎	2
41	巨細胞性動脈炎	0	96	クローン病	47
42	結節性多発動脈炎	13	97	潰瘍性大腸炎	112
43	顕微鏡的多発血管炎	21	98	好酸球性消化管疾患	0
44	多発血管炎性肉芽腫症	3	99	慢性特発性偽性腸閉塞症	0
45	好酸球性多発血管炎性肉芽腫症	2	100	巨大膀胱短小結腸腸管蠕動不全症	0
46	悪性関節リウマチ	16	101	腸管神経節細胞減少症	0
47	バージャー病	20	102	ルビンシュタイン・テイビ症候群	0
48	原発性抗リン脂質抗体症候群	1	103	CFC症候群	0
49	全身性エリテマトーデス	106	104	コステロ症候群	0
50	皮膚筋炎／多発性筋炎	29	105	チャージ症候群	0
51	全身性強皮症	60	106	クリオピリン関連周期熱症候群	0
52	混合性結合組織病	15	107	全身型若年性特発性関節炎	1
53	シェーグレン症候群	36	108	TNF受容体関連周期性症候群	0
54	成人スチル病	1	109	非典型溶血性尿毒症症候群	0
55	再発性多発軟骨炎	0	110	ブラウ症候群	0

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

4 指定難病についての診療

	疾患名	患者数		疾患名	患者数
111	先天性ミオパチー	0	161	家族性良性慢性天疱瘡	0
112	マリネスコ・シェーグレン症候群	0	162	類天疱瘡(後天性表皮水疱症を含む。)	0
113	筋ジストロフィー	1	163	特発性後天性全身性無汗症	0
114	非ジストロフィー性ミオトニー症候群	0	164	眼皮膚白皮症	0
115	遺伝性周期性四肢麻痺	0	165	肥厚性皮膚骨膜炎	0
116	アトピー性脊髄炎	0	166	弾性線維性仮性黄色腫	0
117	脊髄空洞症	0	167	マルファン症候群	0
118	脊髄髄膜瘤	0	168	エーラス・ダンロス症候群	0
119	アイザックス症候群	1	169	メンケス病	0
120	遺伝性ジストニア	0	170	オクシピタル・ホーン症候群	0
121	神経フェリチン症	0	171	ウィルソン病	0
122	脳表ヘモジデリン沈着症	0	172	低ホスファターゼ症	0
123	禿頭と変形性脊椎症を伴う常染色体劣性 白質脳症	0	173	VATER症候群	0
124	皮質下梗塞と白質脳症を伴う常染色体優 性脳動脈症	0	174	那須・ハコラ病	0
125	神経軸索スフェロイド形成を伴う遺伝性び まん性白質脳症	0	175	ウィーバー症候群	0
126	ペリー症候群	0	176	コフィン・ローリー症候群	0
127	前頭側頭葉変性症	0	177	有馬症候群	0
128	ピッカーstaff脳幹脳炎	0	178	モワット・ウィルソン症候群	0
129	痙攣重積型(二相性)急性脳症	0	179	ウィリアムズ症候群	0
130	先天性無痛無汗症	0	180	ATR-X症候群	0
131	アレキサンダー病	0	181	クルーゾン症候群	0
132	先天性核上性球麻痺	0	182	アペール症候群	0
133	メビウス症候群	0	183	ファイファー症候群	0
134	中隔視神経形成異常症/ドモルシア症候群	0	184	アントレー・ピクスラー症候群	0
135	アイカルディ症候群	0	185	コフィン・シリズ症候群	0
136	片側巨脳症	0	186	ロスムンド・トムソン症候群	0
137	限局性皮質異形成	0	187	歌舞伎症候群	0
138	神経細胞移動異常症	0	188	多脾症候群	0
139	先天性大脳白質形成不全症	0	189	無脾症候群	0
140	ドラベ症候群	0	190	鰓耳腎症候群	0
141	海馬硬化を伴う内側側頭葉てんかん	0	191	ウェルナー症候群	0
142	ミオクロニー欠神てんかん	0	192	コケイン症候群	0
143	ミオクロニー脱力発作を伴うてんかん	0	193	プラダー・ウィリ症候群	0
144	レノックス・ガストー症候群	0	194	ソトス症候群	0
145	ウエスト症候群	0	195	ヌーナン症候群	0
146	大田原症候群	0	196	ヤング・シンブソン症候群	0
147	早期ミオクロニー脳症	0	197	1p36欠失症候群	0
148	遊走性焦点発作を伴う乳児てんかん	0	198	4p欠失症候群	0
149	片側痙攣・片麻痺・てんかん症候群	0	199	5p欠失症候群	0
150	環状20番染色体症候群	0	200	第14番染色体父親性ダイソミー症候群	0
151	ラスムッセン脳炎	0	201	アンジェルマン症候群	0
152	PCDH19関連症候群	0	202	スミス・マギニス症候群	0
153	難治頻回部分発作重積型急性脳炎	0	203	22q11.2欠失症候群	0
154	徐波睡眠期持続性棘徐波を示すてんかん 性脳症	0	204	エマヌエル症候群	0
155	ランドウ・クレフナー症候群	0	205	脆弱X症候群関連疾患	0
156	レット症候群	0	206	脆弱X症候群	0
157	スタージ・ウェーバー症候群	1	207	総動脈幹遺残症	0
158	結節性硬化症	0	208	修正大血管転位症	0
159	色素性乾皮症	0	209	完全大血管転位症	0
160	先天性魚鱗癬	0	210	単心室症	0

4 指定難病についての診療

疾患名		患者数		疾患名		患者数
211	左心低形成症候群	0	259	レシチンコレステロールアシルトランスフェラーゼ欠損症		0
212	三尖弁閉鎖症	0	260	シトステロール血症		0
213	心室中隔欠損を伴わない肺動脈閉鎖症	0	261	タンジール病		0
214	心室中隔欠損を伴う肺動脈閉鎖症	0	262	原発性高カイロミクロン血症		0
215	ファロー四徴症	0	263	脳腫黄色腫症		0
216	両大血管右室起始症	0	264	無βリポタンパク血症		0
217	エプスタイン病	0	265	脂肪萎縮症		0
218	アルポート症候群	1	266	家族性地中海熱		0
219	ギャロウェイ・モフト症候群	0	267	高IgD症候群		0
220	急速進行性糸球体腎炎	4	268	中條・西村症候群		0
221	抗糸球体基底膜腎炎	1	269	化膿性無菌性関節炎・壊疽性膿皮症・アクネ症候群		0
222	一次性ネフローゼ症候群	19	270	慢性再発性多発性骨髄炎		0
223	一次性膜性増殖性糸球体腎炎	2	271	強直性脊椎炎		2
224	紫斑病性腎炎	1	272	進行性骨化性線維異形成症		0
225	先天性腎性尿崩症	0	273	肋骨異常を伴う先天性側弯症		0
226	間質性膀胱炎(ハンナ型)	0	274	骨形成不全症		0
227	オスラー病	0	275	タナトフォリック骨異形成症		0
228	閉塞性細気管支炎	0	276	軟骨無形成症		0
229	肺胞蛋白症(自己免疫性又は先天性)	0	277	リンパ管腫症/ゴーハム病		0
230	肺胞低換気症候群	0	278	巨大リンパ管奇形(頸部顔面病変)		0
231	α1-アンチトリプシン欠乏症	0	279	巨大静脈奇形(頸部口腔咽頭びまん性病変)		0
232	カーニー複合	0	280	巨大動静脈奇形(頸部顔面又は四肢病変)		0
233	ウォルフラム症候群	0	281	クリッペル・トレノネー・ウェーバー症候群		0
234	ペルオキシソーム病(副腎白質ジストロフィーを除く。)	0	282	先天性赤血球形成異常性貧血		0
235	副甲状腺機能低下症	1	283	後天性赤芽球癆		0
236	偽性副甲状腺機能低下症	1	284	ダイヤモンド・ブラックファン貧血		0
237	副腎皮質刺激ホルモン不応症	0	285	ファンコニ貧血		0
238	ビタミンD抵抗性くる病/骨軟化症	0	286	遺伝性鉄芽球性貧血		0
239	ビタミンD依存性くる病/骨軟化症	0	287	エプスタイン症候群		0
240	フェニルケトン尿症	0	288	自己免疫性出血病XIII		0
241	高チロシン血症1型	0	289	クロンカイト・カナダ症候群		0
242	高チロシン血症2型	0	290	非特異性多発性小腸潰瘍症		1
243	高チロシン血症3型	0	291	ヒルシュスプルング病(全結腸型又は小腸)		0
244	メープルシロップ尿症	0	292	総排泄腔外反症		0
245	プロピオン酸血症	0	293	総排泄腔遺残		0
246	メチルマロン酸血症	0	294	先天性横隔膜ヘルニア		0
247	イソ吉草酸血症	0	295	乳幼児肝巨大血管腫		0
248	グルコーストランスポーター1欠損症	0	296	胆道閉鎖症		1
249	グルタル酸血症1型	0	297	アラジール症候群		2
250	グルタル酸血症2型	0	298	遺伝性膝炎		0
251	尿素サイクル異常症	0	299	嚢胞性線維症		0
252	リジン尿性蛋白不耐症	0	300	IgG4関連疾患		6
253	先天性葉酸吸収不全	0	301	黄斑ジストロフィー		0
254	ポルフィリン症	0	302	レーベル遺伝性視神経症		0
255	複合カルボキシラーゼ欠損症	0	303	アッシャー症候群		0
256	筋型糖原病	0	304	若年発症型両側性感音難聴		0
257	肝型糖原病	0	305	遅発性内リンパ水腫		0
258	ガラクトース-1-リン酸ウリジルトランスフェラーゼ欠損症	0	306	好酸球性副鼻腔炎		3

(注)「患者数」欄には、前年度の年間実患者数を記入すること。

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

5 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(基本診療科)

H28.3.31

施設基準の種類	施設基準の種類
・地域歯科診療支援病院歯科初診料	・新生児治療回復室入院医療管理料
・歯科外来診療環境体制加算	・小児入院医療管理料2
・歯科診療特別対応連携加算	・回復期リハビリテーション病棟入院料2
・特定機能病院入院基本料 (一般7:1、精神15:1)	・退院支援加算2
・臨床研修病院入院診療加算	・データ提出加算2
・救急医療管理加算	・特定集中治療室管理料4 (広範囲熱傷特定集中治療管理料)
・妊産婦緊急搬送入院加算	・新生児特定集中治療室管理料1
・診療録管理体制加算1	・
・急性期看護補助体制加算 25対1	・
・乳幼児加算・幼児加算	
・超重症児(者)入院診療加算・準超重症児(者)入院診療加算	
・看護補助加算1	・
・療養環境加算	・
・重症者等療養環境特別加算	・
・無菌治療室管理加算1	・
・無菌治療室管理加算2	・
・がん診療連携拠点病院加算	・
・栄養サポートチーム加算	・
・医療安全対策加算1	・
・感染防止対策加算1(地域連携加算)	・
・褥瘡ハイリスク患者ケア加算	・
・ハイリスク妊娠管理加算	・
・ハイリスク分娩管理加算	・
・総合評価加算	・

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

6 届出が受理されている診療報酬制度における施設基準等(特掲診療科)

施設基準の種類	施設基準の種類
・心臓ペースメーカー指導管理料(植込型除細動器移行加算)	・検体検査管理加算(Ⅲ)
・高度難聴指導管理料	・検体検査管理加算(Ⅳ)
・糖尿病合併症管理料	・心臓カテーテル法による諸検査の血管内視鏡検査加算
・がん性疼痛緩和指導管理料	・植込型心電図検査
・がん患者指導管理料1、2、3	・時間内歩行試験
・移植後患者指導管理料(臓器移植後)	・胎児心エコー法
・糖尿病透析予防指導管理料	・ヘッドアップティルト試験
・外来リハビリテーション診療料	・人工膝臓
・外来放射線照射診療料	・皮下連続式グルコース測定
・ニコチン依存症管理料	・光トポグラフィー
・地域連携診療計画管理料	・神経学的検査
・地域連携診療計画退院時指導料(Ⅰ)	・補聴器適合検査
・がん治療連携計画策定料	・ロービジョン検査判断料
・がん治療連携指導料	・コンタクトレンズ検査料1
・がん治療連携管理料	・小児食物アレルギー負荷検査
・肝炎インターフェロン治療計画料	・内服・点滴誘発試験
・薬剤管理指導料	・センチネルリンパ節生検(乳がんに係るものに限る。)
・医療機器安全管理料1	・CT透視下気管支鏡検査加算
・医療機器安全管理料2	・画像診断管理加算1
・歯科治療総合医療管理料	・画像診断管理加算2
・在宅患者歯科治療総合医療管理料	・ポジトロン断層撮影、ポジトロン断層・コンピューター断層複合撮影
・持続血糖測定器加算	・CT撮影及びMRI撮影
・造血器腫瘍遺伝子検査	・冠動脈CT撮影加算
・HPV核酸検出及びHPV核酸検出(簡易ジェノタイプ判定)	・大腸CT撮影加算
・検体検査管理加算(Ⅰ)	・心臓MRI撮影加算

・検体検査管理加算(Ⅱ)	・抗悪性腫瘍剤処方管理加算
・外来化学療法加算1	・内視鏡下鼻・副鼻腔手術V型(拡大副鼻腔手術)
・無菌製剤処理料	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療以外の診療に係るものに限る。)
・心大血管疾患リハビリテーション料(I)	・上顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)、下顎骨形成術(骨移動を伴う場合に限る。)(歯科診療に係るものに限る。)
・脳血管疾患等リハビリテーション料(I)	・乳がんセンチネルリンパ節加算1
・運動器リハビリテーション料(I)	・ゲル充填人工乳房を用いた乳房再建術(乳房切除後)
・運動器リハビリテーション料(Ⅱ)	・経皮的冠動脈形成術
・呼吸器リハビリテーション料(I)	・経皮的冠動脈形成術(高速回転式経皮経管アテレクトミー)
・がん患者リハビリテーション料	・経皮的冠動脈ステント留置術
・歯科口腔リハビリテーション料2	・経皮的中隔心筋焼灼術
・認知療法・認知行動療法	・ペースメーカー移植術及びペースメーカー交換術
・精神科作業療法	・植込型心電図記録計移植術及び植込型心電図記録計摘出術
・抗精神病特定薬剤治療指導管理料(治療抵抗性統合失調症治療指導管理料に限る。)	・両心室ペースメーカー移植術及び両心室ペースメーカー交換術
・医療保護入院等診療料	・植込型除細動器移植術、植込型除細動器交換術及び経静脈電極除去術(レーザーシースを用いるもの)
・エタノールの局所注入(甲状腺に対するもの)	・両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器移植術及び両室ペースメーキング機能付き植込型除細動器交換術
・エタノールの局所注入(副甲状腺に対するもの)	・大動脈バルーンポンピング法(IABP法)
・透析液水質確保加算2	・補助人工心臓
・一酸化窒素吸入療法	・経皮的大動脈遮断術
・CAD/CAM冠	・ダメージコントロール手術
・歯科技工加算	・体外衝撃波胆石破碎術
・皮膚悪性腫瘍切除術(悪性黒色腫センチネルリンパ節加算を算定する場合に限る。)	・腹腔鏡下肝切除術
・組織拡張器による再建手術(一連につき)(乳房(再建手術)の場合に限る。)	・腹腔鏡下腓体尾部腫瘍切除術
・腫瘍脊椎骨全摘術	・早期悪性腫瘍大腸粘膜下層剥離術
・頭蓋骨形成手術(骨移動を伴うものに限る。)	・体外衝撃波腎・尿管結石破碎術
・脳刺激装置植込術(頭蓋内電極植込術を含む。)及び脳刺激装置交換術、脊髄刺激装置植込術及び脊髄刺激装置交換術	・腎腫瘍凝固・焼灼術(冷凍凝固によるもの)
・緑内障手術(緑内障治療用インプラント挿入術(プレートのあるもの))	・同種死体腎移植術

・人工内耳植込術、植込型骨導補聴器移植術及び植込型骨導補聴器交換術	・生体腎移植術
・医科点数表第2章第10部手術の通則5及び6(歯科点数表第2章第9部の通則4を含む。)に掲げる手術	・内視鏡手術用支援機器加算
・胃瘻造設術(内視鏡下胃瘻造設術、腹腔鏡下胃瘻造設術を含む。)	・高エネルギー放射線治療
・輸血管理料 I	・強度変調放射線治療(IMRT)
・輸血適正使用加算	・画像誘導放射線治療加算(IGRT)
・人工肛門・人工膀胱造設術前処置加算	・体外照射呼吸性移動対策加算
・胃瘻造設時嚥下機能評価加算	・定位放射線治療
・歯周組織再生誘導手術	・定位放射線治療呼吸性移動対策加算
・広範囲顎骨支持型装置埋入手術	・保険医療機関間の連携による病理診断
・麻酔管理料(I)	・テレパソロジーによる術中迅速病理組織標本作製
・麻酔管理料(II)	・テレパソロジーによる術中迅速細胞診
・放射線治療専任加算	・病理診断管理加算2
・外来放射線治療加算	・クラウン・ブリッジ維持管理料
・顎口腔機能診断料(顎変形症(顎離断等の手術を必要とするものに限る。)の手術前後における歯科矯正に係るもの)	・歯科矯正診断料
・院内トリアージ実施料	

(様式第2)

高度の医療の提供の実績

7 診療報酬の算定方法に先進医療から採り入れられた医療技術

施設基準等の種類	施設基準等の種類
・実物大臓器立体モデルによる手術計画	・
・インプラント義歯	・
・内視鏡的大腸粘膜下層剥離術	・
・画像支援ナビゲーション手術	・
・胎児心超音波検査	・
・光トポグラフィー検査を用いたうつ症状の鑑別診断補助	・
・硬膜外自家血注入療法	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・
・	・

(注) 1 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入しなくともよいこと。

(注) 2 「施設基準等の種類」欄には、特定機能病院の名称の承認申請又は業務報告を行う3年前の4月以降に、診療報酬の算定方法(平成二〇年厚生労働省告示第五九号)に先進医療(当該病院において提供していたものに限る。)から採り入れられた医療技術について記入すること。

8 病理・臨床検査部門の概要

臨床検査及び病理診断を実施する部門の状況	1. 臨床検査部門と病理診断部門は別々である。 2. 臨床検査部門と病理診断部門は同一部門にまとめられている。
臨床部門が病理診断部門或いは臨床検査部門と開催した症例検討会の開催頻度	48回 / 年
剖 検 の 状 況	剖検症例数 52 例 / 剖検率 17.4 %

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

1 研究費補助等の実績

研究課題名	研究者氏名	所属部門	金額	補助元又は委託元
脈管内腺構造の回転と浸潤・転移	清川 悦子	病理学 I	4,200,000	補 (独) 日本学術振興会
おとり遺伝子による癌の血管新生抑制を標的とした純国産型遺伝子治療法の開発	石橋 浩晃	顎口腔外科学	2,300,000	補 (独) 日本学術振興会
栄養応答シグナルの破綻による代謝疾患の発症機構の理解と制御手段の確立	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	3,000,000	補 (独) 日本学術振興会
現代の食習慣の特徴と非アルコール性脂肪性肝障害の発症・進展との関連性に関する研究	竹内 正義	先端医療研究領域	3,600,000	補 (独) 日本学術振興会
母胎児間シグナルチューニング機構の分子基盤解明	八田 稔久	解剖学 I	2,900,000	補 (独) 日本学術振興会
うつ病者の自殺予防に関する感情調整療法アプローチの開発	長谷川 雅美	看護学部	2,200,000	補 (独) 日本学術振興会
DNA修復蛋白質53BP1の細胞表層への露出とアポトーシス細胞の腫瘍免疫原性獲得	岩淵 邦芳	生化学 I	2,800,000	補 (独) 日本学術振興会
ベトナムにおけるグアイシンの胎児脳機能と乳幼児脳神経発達に及ぼす影響	西条 旨子	公衆衛生学	2,900,000	補 (独) 日本学術振興会
細胞骨格接着分子プレクチンの放射線誘発DNA損傷応答における新規機能の解明	松井 理	生化学 I	1,200,000	補 (独) 日本学術振興会
リン酸化シグナルをターゲットにした非遺伝毒性発がん物質スクリーニング法の開発	吉崎 尚良	小児外科学	1,200,000	補 (独) 日本学術振興会
心血管イベントの予測因子としての脂質代謝酵素動態の解明	小林 淳二	総合内科学	1,500,000	補 (独) 日本学術振興会
抗がん剤による膵がん細胞の浸潤形質獲得の分子機構の解明とがん治療への応用	島崎 猛夫	先端医療研究領域	1,500,000	補 (独) 日本学術振興会
冠れん縮性狭心症の酸化ストレスに影響を及ぼす新たな危険因子の特定	河合 康幸	循環器内科学	1,500,000	補 (独) 日本学術振興会
急性肺傷害におけるリゾリン脂質の解析と同アシル基転移酵素遺伝子導入の効果	長内 和弘	呼吸器内科学	1,600,000	補 (独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患の炎症性単球発現分子および免疫グロブリン対応抗原の同定	正木 康史	血液免疫内科学	1,500,000	補 (独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患の炎症の発生と収束にかかわる脂質メディエーターとそのバランス制御	岩男 悠	血液免疫内科学	1,300,000	補 (独) 日本学術振興会
プロテオミクス的手法を用いたIgG4関連疾患特異的に変動するタンパク質の機能解析	河南 崇典	血液免疫内科学	1,600,000	補 (独) 日本学術振興会
川崎病性血管炎が弾性血管のウインドケッセル機能に与える影響とその機序の解明	中村 常之	小児科学	2,900,000	補 (独) 日本学術振興会
胎盤を介した分子シグナルリレーによる血液脳関門形成制御機構の解明	島田 ひろき	解剖学 I	2,100,000	補 (独) 日本学術振興会
頭頸部癌化学放射線療法における新たな画像解析法による効果および予後予測法の確立	的場 宗孝	放射線医学	1,300,000	補 (独) 日本学術振興会

ステロイド誘発骨壊死分子機構の実証：Cre依存性細胞特異的遺伝子欠損マウスの応用	市堰 徹	整形外科学	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
がん患者の睡眠改善を目的としたタクティールケア介入と効果実証	坂井 恵子	看護学部	1,900,000	補	(独) 日本学術振興会
女性冷え症の東洋医学的所見と生体指標との関連及び冷え症ケアの効果検証の研究	柳原 真知子	看護学部	2,500,000	補	(独) 日本学術振興会
認知症家族介護者の介護技術としてタクティールケアを導入した支援プログラムの開発	小泉 由美	看護学部	1,600,000	補	(独) 日本学術振興会
前期高齢者の効果的・効率的支援の為の介護予防と特定保健指導との連携システムの開発	浜崎 優子	看護学部	500,000	補	(独) 日本学術振興会
放射性ヨード治療におけるリンパ球のDNA損傷に関する検討	渡邊 直人	放射線医学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
生活圏内での感染症媒介昆虫(蚊)とヒトの接触頻度と患者数の関係	村上 学	医動物学	600,000	補	(独) 日本学術振興会
肺がん化学療法における交流磁場併用療法の開発	小林 誠	呼吸器内科学	1,400,000	補	(独) 日本学術振興会
工学的関心に則したロボット倫理学の構築	本田 康二郎	一般教育機構	700,000	補	(独) 日本学術振興会
音響・調音データベースに基づくバイオフィードバックによる英文リズム学習方法の開発	澁谷 良穂	一般教育機構	1,100,000	補	(独) 日本学術振興会
UBR4/p600-HPV16 E7相互作用による発がんメカニズム	田崎 隆史	生命科学研究領域	800,000	補	(独) 日本学術振興会
神経幹細胞における新規中心体制御機構の解析	石垣 靖人	生命科学研究領域	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
IgG4関連疾患におけるThy-1、PDGFの発現に関する解析	黒瀬 望	臨床病理学	500,000	補	(独) 日本学術振興会
レンズ上皮細胞の形態維持機構の解明	清川 悦子	病理学 I	900,000	補	(独) 日本学術振興会
セリンプロテアーゼインヒビターによるアレルギー反応の制御機構の解明	中村 晃	免疫学	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
栄養薬理遺伝学を用いた次世代抗凝固療法の開発	梶波 康二	循環器内科学	500,000	補	(独) 日本学術振興会
夜勤労働の前立腺疾患リスクにおける老化バイオマーカーの関連についての縦断研究	森河 裕子	看護学部	800,000	補	(独) 日本学術振興会
前向き腎移植コホートにおける慢性移植腎障害関連分子に関するプロテオミクス解析	横山 仁	腎臓内科学	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
ストロンチウム治療後におけるリンパ球の放射線組織障害の検討	道合 万里子	放射線医学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
MR拡散強調画像と血管新生因子・遺伝子解析による肺良悪性病変の悪性度の研究	薄田 勝男	呼吸器外科学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
尿路結石におけるHMGB1とRAGEによる発生機序の解明と阻止機構の証明	宮澤 克人	泌尿器科学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
神経性嗅覚障害の病態解明と治療への応用-鍵を握るのはエストロゲンか成長因子か?-	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
食べ方の指導による嗅神経再生効果の画像解析研究	志賀 英明	耳鼻咽喉科学	1,000,000	補	(独) 日本学術振興会

アナフィラキシーショックにおける脳循環の統合的研究	芝本 利重	生理学Ⅱ	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
高齢者の転倒防止における看護実践能力育成のための評価指標の開発	平松 知子	看護学部	1,000,000	補	(独) 日本学術振興会
訪問看護師向け長期膀胱留置カテーテル閉塞予防・対応プロトコルの開発、効果検証	前田 修子	看護学部	1,500,000	補	(独) 日本学術振興会
霊長類コモン・マーマセットを用いた味覚ブレイン-マシン・インターフェースの開発	藺村 貴弘	解剖学Ⅱ	700,000	補	(独) 日本学術振興会
ヒト幹細胞由来心筋細胞における自動能機序の解明とバイオペースメーカーシステム設計	倉田 康孝	生理学Ⅱ	800,000	補	(独) 日本学術振興会
末梢性代謝型グルタミン酸受容体による熱痛覚過敏および純麻の分子機構解明	西尾 眞友	薬理学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
COMT不全がもたらす健康被害の分子機構解明	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
細胞膜スフィンゴ脂質のラフト形成を介した肺腺癌浸潤・転移への関与の解明	上田 善道	病理学Ⅱ	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
Scaffold ウイルス感染は自己免疫疾患(特にⅠ型糖尿病)のトリガーとなるか?	姫田 敏樹	微生物学	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
悪性中皮腫におけるATBF1リン酸化状態と細胞内局在-悪性度との関連性の究明-	湊 宏	臨床病理学	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
日本人労働者の職業性ストレスと脳・心血管疾患発症の関係	石崎 昌夫	衛生学	1,300,000	補	(独) 日本学術振興会
体組成と健診データの疫学的関連に基づくサルコペニア肥満のスクリーニング方法の開発	櫻井 勝	公衆衛生学	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
GLP-1による神経性インスリン分泌促進機構の解明と2型糖尿病治療への応用	西澤 誠	糖尿病・内分泌内科学	1,900,000	補	(独) 日本学術振興会
スキルス胃癌の癌間質増生と癌性腹膜炎発症機構の病態解明	安本 和生	腫瘍内科学	1,100,000	補	(独) 日本学術振興会
胎盤栄養膜細胞の浸潤能獲得におけるガレクチンファミリーによる制御機構	東海林 博樹	一般教育機構	1,400,000	補	(独) 日本学術振興会
後発白内障における水晶体上皮間葉系移行と水晶体再生制御機構の解明	久保 江理	眼科学	1,600,000	補	(独) 日本学術振興会
スキンケアの深化: スキンテア(皮膚裂傷)予防システムの構築	紺家 千津子	看護学部	1,000,000	補	(独) 日本学術振興会
認知症患者の家族介護者に対する睡眠支援を目的としたレスパイトケアの効果検証	櫻井 志保美	看護学部	1,000,000	補	(独) 日本学術振興会
イオンチャネルを介したオメガ-3不飽和脂肪酸のアルツハイマー病脳改善作用	田嶋 信義	生理学Ⅰ	800,000	補	(独) 日本学術振興会
コンタクトレンズの装用はミリ波ばく露誘発眼障害を増悪させるか	小島 正美	看護学部	1,700,000	補	(独) 日本学術振興会
アポトーシス細胞におけるクロマチンの細胞表層露出のメカニズム解明	岩淵 邦芳	生化学Ⅰ	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
働く世代のがん患者が抱える社会的問題の評価尺度とスクリーニングによる介入法の開発	久村 和穂	腫瘍内科学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
ダイオキシンによる自閉症スペクトラム障害とミラーニューロン系活動との関連	西条 旨子	公衆衛生学	2,300,000	補	(独) 日本学術振興会

母胎間シグナルトランスミッターの構造解析	八田 稔久	解剖学 I	500,000	補	(独) 日本学術振興会
外来化学療法を受けるがん患者の治療と就労の両立支援モデルの開発	北村 佳子	看護学部	700,000	補	(独) 日本学術振興会
オートファジー制御による糖尿病腎症に対する新たな治療薬の開発	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	600,000	補	(独) 日本学術振興会
急性肺障害に対する遺伝子修飾骨髄由来間葉系幹細胞の全身投与による治療法の確立	田中 良	呼吸器外科学	800,000	補	(独) 日本学術振興会
里帰り分娩後から1か月間における初めて母親・父親となった夫婦の3人家族作りの体験	保田 ひとみ	看護学部	700,000	補	(独) 日本学術振興会
アセチルコリンによる細胞内受容体を介した新たなシナプス可塑性調節機構の解明	工藤 麻希子	薬理学	1,100,000	補	(独) 日本学術振興会
スフィンゴ脂質の新規機能に着目した口腔癌に対する新たな浸潤・転移制御法の開発	加藤 晃一郎	顎口腔外科学	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
抗がん剤点滴静脈内注射の血管外漏出の有無の客観的判定基準の開発	松井 優子	看護学部	900,000	補	(独) 日本学術振興会
医療処置を要する在宅療養者と支援者による災害備えチェックシートの開発	中井 寿雄	看護学部	900,000	補	(独) 日本学術振興会
深部静脈血栓症予防用弾性ストッキングにおける皮膚障害予防ケア基準の開発	木下 幸子	看護学部	500,000	補	(独) 日本学術振興会
ユビキチン依存的DNA-PK活性化が導く抗がん剤感受性のメカニズム解明	逆井 良	生化学 I	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
生活習慣病を予見する新しい糖化蛋白質の同定、および疾患予防食品成分の探索	逆井 亜紀子	先端医療研究領域	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
安全・安心な分娩管理に向けた助産師の意思決定支援システムの開発	山崎 智里	看護学部	1,000,000	補	(独) 日本学術振興会
胃がん形成に関わる遺伝子の同定と機能評価	武田 はるな	病理学 I	1,600,000	補	(独) 日本学術振興会
血管は神経の動きかけにどう応答するか？血管形成におけるJunBの新しい役割の解明	吉富 泰央	生化学 II	900,000	補	(独) 日本学術振興会
翼状片発症機構の解明と予防薬の開発に関する研究	柴田 奈央子	眼科学	800,000	補	(独) 日本学術振興会
養育者の心理傾向に着目した虐待へのポピュレーションアプローチに関する研究	寺井 孝弘	看護学部	500,000	補	(独) 日本学術振興会
ストレングスモデルに基づく行動制限最小化看護介入の開発に関する研究	長山 豊	看護学部	800,000	補	(独) 日本学術振興会
日本脳炎ウイルス感染におけるスフィンゴミエリン/脂質ラフトの役割	谷口 真	生命科学研究領域	500,000	補	(独) 日本学術振興会
DNA損傷修復蛋白質XRCC4の脱リン酸化がアポトーシス促進の引き金となるか	砂谷 優実	生化学 I	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
終末糖化産物に着目した糖尿病併発癌促進蛋白質の同定及び柑橘類含有化合物の作用	高田 尊信	先端医療研究領域	1,200,000	補	(独) 日本学術振興会
体力づくりを配慮したゴール型教材の授業づくりに関する研究	津田 龍佑	一般教育機構	600,000	補	(独) 日本学術振興会
ADAMTS13 KOマウスを用いた突然死発生メカニズムの解明	小林 正宗	法医学	1,500,000	補	(独) 日本学術振興会

ミトコンドリアの恒常性維持を基盤としたサーチュインの糖尿病腎症に対する意義の解明	渡邊 愛	糖尿病・内分泌内科学	900,000	補	(独) 日本学術振興会
レビー小体型認知症の新規画像診断システムの開発：高解像度イメージング技術の応用	奥田 光一	一般教育機構	1,100,000	補	(独) 日本学術振興会
座位褥瘡を座位で治す革新的褥瘡ケア方法の確立	福田 守良	看護学部	600,000	補	(独) 日本学術振興会
老年期うつ病者の「レジリエンス」向上に寄与する治療的看護実践の考案	田中 浩二	看護学部	1,100,000	補	(独) 日本学術振興会
レプチンによる肝臓及び膵臓自律神経調節と糖代謝改善への応用	谷田 守	生理学Ⅱ	1,700,000	補	(独) 日本学術振興会
リンパ浮腫の軽減を目的としたさらに有効なケア開発のための基礎的研究	浅野 きみ	看護学部	1,000,000	補	(独) 日本学術振興会
グリセリン浸漬透明標本の固形基剤包埋法の開発	三谷 真弓	医学部庶務課	600,000	補	(独) 日本学術振興会
器官・組織形成期の発生異常に基づく上皮管腔組織形成障害	八田 稔久	解剖学Ⅰ	1,500,000	補	(独) 日本学術振興会
DNA二本鎖損傷修復経路選択機構の解明とゲノム編集技術への応用	逆井 良	生化学Ⅰ	300,000	補	(独) 日本学術振興会
ヒト発話シミュレータによるStory Teller Systemの構築	ドナ・エリクソン	一般教育機構	400,000	補	(独) 日本学術振興会
降雪地域の高齢者の心身機能向上を目的とした歩行機能サポートプログラムの構築と評価	中川 秀昭	総合医学研究所	500,000	補	(独) 日本学術振興会
アジア太平洋地域における膜性腎症の実態調査研究	横山 仁	腎臓内科学	200,000	補	(独) 日本学術振興会
認知症高齢者の転倒予防看護質指標による看護介入プログラムと実践継続システムの開発	平松 知子	看護学部	350,000	補	(独) 日本学術振興会
降雪地域の高齢者の心身機能向上を目的とした歩行機能サポートプログラムの構築と評価	平松 知子	看護学部	100,000	補	(独) 日本学術振興会
臨床判断力育成を包含した店頭予防のコンピューターシミュレーションプログラムの開発	平松 知子	看護学部	100,000	補	(独) 日本学術振興会
セルフ・ネグレクト高齢者への効果的な介入・支援とその評価に関する実践的研究	浜崎 優子	看護学部	100,000	補	(独) 日本学術振興会
女性アルコール依存症者の死への転帰を予防するための断酒継続プログラムの開発	長谷川 雅美	看護学部	50,000	補	(独) 日本学術振興会
記述に根ざした技術の現象学的研究：技術の記述的探究と批判的視点の確立	本田 康二郎	一般教育機構	100,000	補	(独) 日本学術振興会
看護と介護のより良い連携に向けた教育デザイン-感染防御策に焦点を当てて-	橋本 智江	看護学部	50,000	補	(独) 日本学術振興会
寝たきり高齢者の褥瘡予防のための圧分散と寝床内環境調整を加味したシーツの開発	紺家 千津子	看護学部	30,000	補	(独) 日本学術振興会
2型糖尿病患者の運動療法のとらえ方からみた運動療法看護教育プログラムの完成	紺家 千津子	看護学部	30,000	補	(独) 日本学術振興会
急性期病院における高齢患者に対するコンチネンスケアプログラムの開発	平松 知子	看護学部	100,000	補	(独) 日本学術振興会
認知症対応型看護実践のための教育プログラムの開発	平松 知子	看護学部	50,000	補	(独) 日本学術振興会

抗糖尿病薬が2型糖尿病ラットの骨インプラント結合に与える影響の力学・組織学的分析	藺村 貴弘	解剖学Ⅱ	100,000	補	(独)日本学術振興会
骨組織による血糖値調節機構の解明ー スフィンゴミエリンの重要性ー	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	100,000	補	(独)日本学術振興会
パーキンソン病の外科治療における新規手術標的の実験的探索	藺村 貴弘	解剖学Ⅱ	100,000	補	(独)日本学術振興会
応用倫理学における精神医療倫理と合意形成	本田 康二郎	一般教育機構	90,000	補	(独)日本学術振興会
正常分娩の地域分散型医療連携システム構築に向けた基盤づくり	岩谷 久美子	看護学部	100,000	補	(独)日本学術振興会
超音波検査による頭頸部癌頸部リンパ節転移診断基準の有効性に関する多施設研究	下出 祐造	頭頸部外科学	100,000	補	(独)日本学術振興会
高齢者の静脈穿刺後皮下出血における皮膚バリア機能の評価	紺家 千津子	看護学部	30,000	補	(独)日本学術振興会
新規疾患；TAFRO症候群の確立のための研究	正木 康史	血液免疫内科学	775,000	補	厚生労働省
エビデンスに基づいた神経免疫疾患の早期診断基準・重症度分類・治療アルゴリズムの確立	松井 真	神経内科学	16,420,000	補	厚生労働省
東京電力福島第一原子力発電所における緊急作業従事者の放射線被ばく量と水晶体混濁発症に関する調査	佐々木 洋	眼科学	1,900,000	補	厚生労働省
神経免疫学的視点による難治性視神経炎の診断基準作成	田中 恵子	総合医学研究所	2,496,000	補	厚生労働省
キャッスルマン病の疫学診療実態調査と患者団体支援体制の構築に関する研究	正木 康史	血液免疫内科学	50,000	補	厚生労働省
検診効果の最大化に資する、職域を加えた新たながん検診精度管理手法に関する研究	佐川 元保	呼吸器外科学	400,000	補	厚生労働省
難治性腎疾患に関する調査研究	横山 仁	腎臓内科学	600,000	補	厚生労働省
小児期からの希少難治性消化管疾患の移行期を包含するガイドラインの確立に関する研究	河野 美幸	小児外科学	100,000	補	厚生労働省
難治性疾患の継続的な疫学データの収集・解析に関する研究	櫻井 勝	公衆衛生学	300,000	補	厚生労働省
自己免疫疾患に関する調査研究	田中 真生	血液免疫内科学	300,000	補	厚生労働省
特発性大腿骨頭壊死症の疫学調査・診断基準・重症度分類の改訂と診療ガイドライン策定を目指した大規模多施設研究	松本 忠美	整形外科	100,000	補	厚生労働省
都道府県がん登録データの全国集計と既存がん統計の資料の活用によるがん及びがん診療動向把握の研究	西野 善一	公衆衛生学	350,000	補	厚生労働省
がん登録等の推進に関する法律下におけるがん登録情報の活用の実際に関する研究	西野 善一	公衆衛生学	250,000	補	厚生労働省
在宅医療患者等における多剤性耐菌の分離率及び分子疫学解析	飯沼 由嗣	臨床感染症学	1,286,000	補	厚生労働省
医療機関における感染制御に関する研究	飯沼 由嗣	臨床感染症学	320,000	補	厚生労働省
循環器疾患における集団間の健康格差の実態把握とその対策を目的とした大規模コホート共同研究	中川 秀昭	総合医学研究所	1,550,000	補	厚生労働省

社会的要因を含む生活習慣病リスク要因の解明を目指した国民代表集団の大規模コホート研究：NIPPON DATA80/90/2010	中川 秀昭	総合医学研究所	350,000	補	厚生労働省
低線量CTによる肺がん検診の実用化を目指した無作為化比較試験および大規模コホート研究	佐川 元保	呼吸器外科学	61,256,000	補	日本医療研究開発機構
トリコフィトトンスランス感染症の疫学的研究と感染対策の教育技法の開発（分担）	望月 隆	皮膚科学	519,653	補	日本医療研究開発機構
腎・移植・透析専門医間の連携システム構築 保存期慢性腎不全の疫学担当（分担）	横山 仁	腎臓内科学	384,616	補	日本医療研究開発機構
レジストリー構築、全国調査（分担）	横山 仁	腎臓内科学	1,000,000	補	日本医療研究開発機構
検証コホート研究：地域行政データを用いた認知症発症要因に関する研究	森本 茂人	高齢医学	2,000,000	補	日本医療研究開発機構
市販後における重篤副作用（間質性肺炎、横紋筋融解症、重症薬疹等）の発症要因解明と安全対策に関する研究	梶波 康二	循環器内科学	346,154	補	日本医療研究開発機構
ナットウキナーゼによるランダム化プラセボ対照二重盲検試験、経鼻腔のアイソトープ移行と嗅覚機能の関係に関する研究（分担）	三輪 高喜	耳鼻咽喉科学	500,000	補	日本医療研究開発機構
HDAC阻害薬の薬力学的効果の新しい指標の探索（分担）	清川 悦子	病理学 I	2,000,000	補	日本医療研究開発機構
石川県における早期介入のための地域連携モデル構築に関する研究（金沢におけるデータ収集と解析）（分担）	川崎 康弘	精神神経科学	500,000	補	日本医療研究開発機構
高悪性度骨軟部腫瘍に対する標準治療確立のための研究	野島 孝之	臨床病理学	200,000	補	日本医療研究開発機構
抗Neurofascin155抗体関連中枢・末梢神経障害症候群（CGPD/GIDP）の診療ガイドライン作成のための定量的抗体測定法の開発と基盤エビデンスの構築（分担）	松井 真	神経内科学	538,462	補	日本医療研究開発機構
多発性硬化症生体試料バンクを活用したアジア人特有の遺伝環境因子探索による病態解明	松井 真	神経内科学	650,000	補	日本医療研究開発機構
免疫性ニューロパチーの治療反応性予測に基づく有効な治療戦略の構築	松井 真	神経内科学	400,000	補	日本医療研究開発機構
希少難治性脳・脊髄疾患の歩行障害に対する生体電位駆動型下肢装置型補助ロボット（HAL-HN01）を用いた新たな治療実用化のための多施設共同医師主導治験の実施研究	本田 康二郎	一般教育機構	800,000	補	日本医療研究開発機構
先天異常モニタリング解析による本邦の先天異常発生状況の推移とその影響要因（放射線被ばくの影響、出生前診断の影響等を含む）に関する研究	中川 秀昭	総合医学研究所	183,077	補	日本医療研究開発機構
カドミウム汚染地域（神通川流域、梯川流域）住民の追跡研究－カドミウム暴露に伴う生命予後と健康影響－	中川 秀昭	共同利用センター	4,347,827	補	（株）東レリサーチセンター（環境省）
生活習慣病の発症・進展における新規ターゲットとしてのToxic AGEs (TAGE)の関与とその阻止	竹内 正義	先端医療研究領域	5,886,356	補	文部科学省
からだを透かして見てみよう－透明人間できるかな？－2015	八田 稔久	解剖学 I	360,000	補	（独）日本学術振興会
長寿のメニューってできるんけ？2015～食品の「活性酸素」を消す力を測定しよう～	島田 ひろき	解剖学 I	360,000	補	（独）日本学術振興会
人に病気をうつす虫（蚊）がどんな奴か観察してみよう	村上 学	生命科学研究領域	360,000	補	（独）日本学術振興会

がん検診の有効性評価に関する研究	佐川 元保	呼吸器外科学	200,000	補	国立研究開発法人 国立がん研究センター
抗線維化ペプチド薬の開発	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	2,500,000	補	名古屋大学（日本 医療研究開発機構）
進行膀胱癌とそのエキソソームをターゲットとした治療薬の開発	島崎 猛夫	先端医療研究領域	2,500,000	補	名古屋大学（日本 医療研究開発機構）
重症心不全患者に対するテイラーメイド方式心臓サポートネット開発	秋田 利明	心臓血管外科学	10,139,000	補	名古屋大学（日本 医療研究開発機構）
第14回日本韓国糖尿病腎症セミナー	古家 大祐	糖尿病・内分泌内科学	1,080,000	補	(独)日本学術 振興会
レチノイン酸の濃度変化を引き起して催奇形性を示す化学物質のスクリーニング法の開発と催奇形性発症の分子機構の解明	八田 稔久	解剖学 I	1,600,000	補	東北薬科大学（内 閣府食品安全委員会）
がん幹細胞を標的とした根治療法の開発	清川 悦子	病理学 I	1,022,728	補	金沢大学（日本医 療研究開発機構）
スフィンゴミエリン合成酵素（SMS）1を標的とした難治性がんに対する次世代抗がん剤の開発	岡崎 俊朗	血液免疫内科学	5,510,000	補	(国研)科学技 術振興機構
Regulation and Function of Prdx6 in eye lens during Aging & Oxidative Stress	久保 江理	眼科学	1,277,000	補	ネブラスカ大 学（NIH）
動脈硬化の発症と進展に関与する新規メカニズムの探索と治療法開発	梶波 康二	循環器内科学	5,700,000	補	(公財)車両競技 公益資金記念財 団
コーヒー摂取による内臓求心生自律神経経路への効果	谷田 守	生理学 II	1,500,000	補	一般財団法人全 日本コーヒー協 会
大豆イソフラボンによる胃迷走神経抑制が摂食調節を起こす仕組みの解明	谷田 守	生理学 II	1,000,000	補	(公財)不二たん 白質研究振興財 団
認知症スクリーニング調査と地域・医療・行政の包括的クリティカルパスの構築	松田 幸久	プロジェクト研究 センター	1,820,000	補	一般財団法人杉浦 地域医療振興財団
アセチルコリントランスポーターの同定およびニコチンの影響	村松 郁延	薬理学	2,500,000	補	(公財)喫煙科学 研究財団
医療処置を要する在宅療養者と支援者が共同で備えをするための「災害備えチェックシート」の開発～生命維持のために医療機器を要する在宅療養者の災害に対する備えの実態～	中井 寿雄	看護学部	350,000	補	公益社団法人 日本看護科学学 会
ニコチンの認知機能と脳内エネルギー代謝に及ぼす影響について	上原 隆	精神神経科学	2,000,000	補	(公財)喫煙科学 研究財団
胃迷走神経求心路に対するCCK作用をもつ食成分の探索	谷田 守	生理学 II	1,000,000	補	(公財)三島海雲 記念財団
悪性腫瘍の発症・進展における毒性終末糖化産物の関与	竹内 正義	先端医療研究領域	1,000,000	補	(財)北國がん研 究振興財団
肺腺がんの進展における腫瘍関連マクロファージの検討	町田 雄一郎	呼吸器外科学	500,000	補	(財)北國がん研 究振興財団
肝がんのエピジェネティクス—過栄養がもたらすmicroRNA 発現の変化と肝発癌の関係	利國 信行	肝胆膵内科	500,000	補	(財)北國がん研 究振興財団
緩和ケア委員会 CLIMB プロジェクトチーム	久村 和穂	腫瘍内科学	300,000	補	(財)北國がん研 究振興財団
座位褥瘡における圧切り替え型車いすクッションの有用性—ランダム化比較試験による褥瘡治癒と心身機能の評価—	福田 守良	看護学部	500,000	補	日本褥瘡学会

糖尿病腎の線維化分子機構解明と新規治療戦略の開発	金崎 啓造	糖尿病・内分泌内科学	3,000,000	補	(公財)内藤記念科学振興財団
肺高血圧モデルマウスの血中循環遺伝子の病態解析	四宮 祥平	呼吸器内科学	2,000,000	補	グラクソ・スミスクライン(株)
脳転移がん細胞の休眠維持と破綻の機構解明	平田 英周	病理学 I	2,000,000	補	(公財)上原記念生命科学財団
脳転移がん細胞の休眠維持・破綻の機構解明	平田 英周	病理学 I	500,000	補	(公財)日本脳神経財団

計 182件

- (注) 1 国、地方公共団体又は公益法人から補助金の交付又は委託を受け、当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に行った研究のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。
- (注) 2 「研究者氏名」欄は、1つの研究について研究者が複数いる場合には、主たる研究者の氏名を記入すること。
- (注) 3 「補助元又は委託元」欄は、補助の場合は「補」に、委託の場合は「委」に、○印を付けた上で、補助元又は委託元を記入すること。

(様式第3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

2 論文発表等の実績

(1) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象となる論文

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1	M. Sagawa	呼吸器外科学	A survey about further work-up for cases with positive sputum cytology during lung cancer mass screening in Ishikawa Prefecture, Japan: a retrospective analysis about quality assurance of lung cancer screening	Japanese Journal of Clinical Oncology, 45, 297-302, 2015
2	T. Ichiseki	整形外科	Age-related changes of mitochondrial transcription factor a expression in rotator cuff degeneration	American Journal of Translational Research, 7, 2099-2104, 2015
3	H. Ogiso	血液免疫内科学	Analysis of lipid-composition changes in plasma membrane microdomains	Journal of Lipid Research, 56, 1594-1605, 2015
4	SY. Nagasawa	健康管理センター	Associations between inflammatory markers and subclinical atherosclerosis in middle-aged white, Japanese-American and Japanese men: The ERA-JUMP study	Journal of Atherosclerosis Thrombosis, 22, 590-598, 2015
5	T. Ishizaki	呼吸器内科学	Blunted Activation of Rho-Kinase in Yak Pulmonary Circulation	Biomed Research International, 2015, 1-5, 2015
6	K. Fukui	整形外科	Bone remodeling after a mean of 10 years in diaphyseal cortical defects repaired with femoral revision using bypass fixation of extensively porous-coated stems with high stiffness	European Journal of Orthopaedic Surgery & Traumatology : Orthopédie Traumatologie, 25, 741-
7	T. Satoh-Nakamura	血液免疫内科学	CD14+ follicular dendritic cells in lymphoid follicles may play a role in the pathogenesis of IgG4-related disease	Biomedical Research, 36, 143-153, 2015
8	M. Kojima	眼科学	Characteristics of ocular temperature elevations after exposure to quasi- and millimeter waves (18-40 GHz)	Journal of Infrared Millimeter and Terahertz Waves, 36, 390-399, 2015
9	K. Fukui	整形外科	Clinical assessment after total hip arthroplasty using the Japanese Orthopaedic Association Hip-Disease Evaluation Questionnaire	Journal of Orthopaedics, 12, S31-S36, 2015

10	K. Fujimoto	腎臓内科学	Clinical significance of serum and urinary soluble urokinase receptor (suPAR) in primary nephrotic syndrome and MPO-ANCA-associated glomerulonephritis in Japanese	Clinical and Experimental Nephrology, 19, 804-814, 2015
11	N. Hayashi	腎臓内科学	Clinicopathological characteristics of M-type phospholipase A2 receptor (PLA2R)-related membranous nephropathy in Japanese	Clinical and Experimental Nephrology, 19, 797-803, 2015
12	M. Yamashita	形成外科学	Correction of late posttraumatic enophthalmos using an antral balloon	The Journal of Craniofacial Surgery, 26, 1365-1369, 2015
13	T. Akai	脳神経外科学	De novo aneurysm formation following gamma knife surgery for arteriovenous malformation: A case report	Journal of neurological surgery reports, 76, e105-e108, 2015
14	A. Nakajima	血液免疫内科学	Decreased expression of innate immunity-related genes in peripheral blood mononuclear cells from patients with IgG4-related disease	PLoS One, 10, e0126582, 2015
15	K. Usuda	呼吸器外科学	Diagnostic performance of diffusion-weighted imaging for multiple hilar and mediastinal lymph nodes with FDG accumulation	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention, 16, 6401-6406, 2015
16	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Diagnostic value of interleukin-10 in cerebrospinal fluid for diffuse large B-cell lymphoma of the central nervous system	Journal of neuro-oncology, 121, 177-183, 2015
17	K. Usuda	呼吸器外科学	Diffusion weighted imaging can distinguish benign from malignant mediastinal tumors and mass lesions: comparison with positron emission tomography	Asian Pacific Journal of Cancer Prevention, 16, 6469-6475, 2015
18	Y. Matsui	腎臓内科学	DNA double-strand breaks induced intractable glomerular fibrosis in renal allografts	Clinical and Experimental Nephrology, 20, 479-488, 2015
19	K. Fukui	整形外科	Does rotational acetabular osteotomy affect subsequent total hip arthroplasty?	Archives of Orthopaedic and Trauma Surgery, 135, 407-415, 2015
20	M. Fukuda	眼科学	Effects of fluoroquinolone-based antibacterial ophthalmic solutions on corneal wound healing	Journal of Ocular Pharmacology and Therapeutics, 31, 536-540, 2015

21	N. Toshikuni	肝胆膵内科	Elevated serum gamma-glutamyl transpeptidase levels and fatty liver strongly predict the presence of carotid plaque	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 22, 1051-1060, 2015
22	S. Mizuno	呼吸器内科学	Endogenous Asymmetric Dimethylarginine Pathway in High Altitude Adapted Yaks	Biomed Research International, 2015, 1-6, 2015
23	M. Ishizaki	衛生学	Estimation of biological half-life of urinary cadmium in inhabitants after cessation of environmental cadmium pollution using a mixed linear model	Food Additives and Contaminants Part A- Chemistry Analysis Control Exposure &
24	Y. Tachi	整形外科	Expression of hyaluronidase-4 in a rat spinal cord hemisection model	Asian Spine Journal, 9, 7-13, 2015
25	N. Kawada	肝胆膵内科	Imaging morphological changes of intraductal papillary mucinous neoplasm of the pancreas was associated with its malignant transformation but not with development of pancreatic ductal adenocarcinoma	Pancreatology, 15, 654-660, 2015
26	J. Moriya	総合内科学	Induction murine models of chronic fatigue syndrome by brucella abortus antigen injections: is anemia induced or not?	Biomed Research International, 2015, 191489, 2015
27	H. Yoshizaki	小児外科学	Large-scale analysis of evolutionary histories of phosphorylation motifs in the human genome	GigaScience, 4, 1-6, 2015
28	M. Matoba	放射線医学	Lesion regression rate based on RECIST: prediction of treatment outcome in patients with head and neck cancer treated with chemoradiotherapy compared with FDG PET-CT	Journal of Radiation Research, 56, 553-560, 2015
29	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Median nerve conduction studies and wrist magnetic resonance imaging in acromegalic patients with carpal tunnel syndrome	Pituitary, 18, 695-700, 2015
30	T. Itoh	消化器内視鏡学	New treatment strategy for submucosa-infiltrating gastric cancer without sentinel node metastasis: A pilot study of laparoscopy-assisted endoscopic full-thickness resection in an IN VIVO porcine model.	ENDOSCOPIC FORUM for digestive disease, 31, 17-26, 2015
31	M. Yamashita	形成外科学	One-piece bone flap osteotomy using thread wire saw for fronto-orbital advancement with distraction osteogenesis in craniosynostosis	Child's Nervous System, 31, 279-283, 2015

32	Y. Takahashi	眼科学	Optical simulation for subsurface nanoglistening	Journal of Cataract and Refractive Surgery, 41, 193–198, 2015
33	S. Ueda	整形外科科学	Osteocytic cell necrosis is caused by a combination of glucocorticoid-induced Dickkopf-1 and hypoxia	Medical Molecular Morphology, 48, 69–75, 2015
34	H. Yokoyama	腎臓内科学	Outcomes of primary nephrotic syndrome in elderly Japanese: retrospective analysis of the Japan Renal Biopsy Registry (J-RBR)	Clinical and Experimental Nephrology, 19, 496–505, 2015
35	G. Matsumoto	顎口腔外科学	Polyhedral microcrystals encapsulating bone morphogenetic protein 2 improve healing in the alveolar ridge	Journal of Biomaterials Applications, 30, 193–200, 2015
36	T. Sakai	血液免疫内科学	Prospective clinical study of R-CMD therapy for indolent B cell lymphoma and mantle cell lymphoma from the Hokuriku Hematology Oncology Study Group	Medical Oncology, 32, 232–238, 2015
37	H. Yoshizaki	小児外科学	Regulation of Ripply1 expression in MDCK organoids	Biochemical and Biophysical Research Communications, 468, 337–342, 2015
38	A. Kaneuji	整形外科科学	Rotational acetabular osteotomy for osteoarthritis with acetabular dysplasia: Conversion rate to total hip arthroplasty within twenty years and osteoarthritis progression after a minimum of twenty years	The Journal of bone and joint surgery. American volume, 97, 726–732, 2015
39	N. Toshikuni	肝胆膵内科	Serum endocan as a survival predictor for patients with liver cirrhosis	Canadian Journal of Gastroenterology and Hepatology, 29, 427–430, 2015
40	Y. Matsue	肝胆膵内科	Serum osteopontin predicts degree of hepatic fibrosis and serves as a biomarker in patients with hepatitis C virus Infection	PLoS One, 10, e0118744, 2015
41	M. Nakamura	消化器内科学	The effect of short-term proton pump inhibitor plus anti-ulcer drug on the healing of endoscopic submucosal dissection-derived artificial ulcer: A randomized controlled trial	Hepato-Gastroenterology, 62, 219–224, 2015
42	T. Tsukada	脳神経外科学	The suppression of maternal-fetal leukemia inhibitory factor signal relay pathway by maternal immune activation impairs brain development in mice	PLoS One, 10, e0129011, 2015

43	M. Fukuda	眼科学	The transcorneal penetration of commercial ophthalmic formulations containing timolol maleate in rabbit eyes	Journal of Ocular Pharmacology and Therapeutics, 31, 57-60, 2015
44	M. Nishi jo	公衆衛生学	Urinary amino acid alterations in 3-year-old children with neurodevelopmental effects due to perinatal dioxin exposure in Vietnam: a nested case-control study for neurobiomarker discovery.	PLoS One, 10, e0116778, 2015
45	N. Kawada	消化器内科学	Usefulness of Dual-Phase F-18-FDG PET/CT for Diagnosing Small Pancreatic Tumors	Pancreas, 44, 655-659, 2015
46	J. Kobayashi	総合内科学	Hepatic Lipase: A comprehensive view of it's role on plasma lipid and lipoprotein metabolism	Journal of Atherosclerosis and Thrombosis, 22, 1001-1011, 2015
47	M. Noguchi	一般・消化器外科学	Is axillary reverse mapping feasible in breast cancer patients?	European Journal of Surgical Oncology, 41, 442-449, 2015
48	J. Kobayashi	総合内科学	Lipoprotein lipase and atherosclerosis	The Annals of Clinical Biochemistry, 52, 632-637, 2015
49	T. Mochizuki	皮膚科学	Molecular markers useful for epidemiology of dermatophytoses	Journal of Dermatology, 42, 232-235, 2015
50	T. Uehara	精神神経科学	New pharmacotherapy targeting cognitive dysfunction of schizophrenia via modulation of GABA neuronal function	Current Neuropharmacology, 13, 793-801, 2015
51	K. Tanaka	神経内科学	Recent update on autoimmune encephalitis/encephalopathy	Clinical and Experimental Neuroimmunology, 6, 70-82, 2015
52	S. Mizuno	呼吸器内科学	Role of p53 in lung tissue remodeling	World Journal of Respiriology, 5, 40-46, 2015
53	Y. Ohno	一般・消化器外科学	Tangential frozen section analysis for the surgical margins in breast-conserving surgery	American Journal of Breast Cancer Research, 2, 9-20, 2015

54	N. Ueki	糖尿病・内分泌内科学	The relevance of the renin-angiotensin system in the development of drugs to combat preeclampsia	International Journal of Endocrinology [Electronic Resource], 2015, 1-12, 2015
55	Y. Niida	遺伝子医療センター	A girl with greig cephalopolysyndactyly contiguous gene deletion syndrome: The importance and usefulness of DNA microarray analysis	Hereditary Genetics, S7, 1-3, 2015
56	Y. Sakata	皮膚科学	Case of cutaneous phaeohyphomycosis caused by Phaeoacremonium sp. in a renal transplant recipient	Journal of Dermatology, 42, 263-266, 2015
57	K. Fukui	整形外科科学	Early MRI and intraoperative findings in rapidly destructive osteoarthritis of the hip: a case report	International Journal of Surgery Case Reports, 8, 13-17, 2015
58	M. Sagawa	呼吸器外科学	Left pulmonary agenesis showing extraordinary chest X-ray findings	American Journal of Respiratory and Critical Care Medicine, 191, 1083-1083, 2015
59	Y. Machida	呼吸器外科学	Malignant fibrous histiocytoma accompanying hemorrhage in the pleural cavity	Journal of Case Reports and Studies, 2, 1-3, 2015
60	S. Nakada	臨床病理学	NAB2-STAT6 fusion gene analysis in two cases of meningeal solitary fibrous tumor/hemangiopericytoma with late distant metastases	Brain Tumor Pathology, 32, 268-274, 2015
61	K. Fukui	整形外科科学	Occult fracture of the femoral neck associated with extensive osteonecrosis of the femoral head: a case report	International Journal of Surgery Case Reports, 14, 136-140, 2015
62	Y. Sasagawa	脳神経外科学	Pituitary apoplexy following gonadotropin-releasing hormone agonist administration with gonadotropin-secreting pituitary adenoma	Journal of Clinical Neuroscience, 22, 601-603, 2015
63	Y. Hayashi	脳神経外科学	Pure lymphocytic infundibuloneurohypophysitis caused by the rupture of Rathke's cleft cyst: Report of 2 cases and review of the literature	Turkish Neurosurgery, 25, 332-336, 2015
64	Y. Niida	遺伝子医療センター	Radiological diagnosis of a neonate with mucopolipidosis II (I-cell disease)	Clinical Medical Image Library, 1, 17-18, 2015

65	T. Ichiseki	整形外科	Rare coexistence of gouty and septic arthritis after arthroscopic rotator cuff repair: a case report	International Journal of Clinical and Experimental Medicine, 8, 4718-4720, 2015
66	Y. Machida	呼吸器外科学	Successful treatment of bronchial fistula after pulmonary lobectomy by endobronchial embolization using an endobronchial watanabe spigot	Hindawi Publishing corporation, 425694, 1-3, 2015
67	H. Minato	臨床病理学	Thymic lymphoid hyperplasia with multilocular thymic cysts diagnosed before the Sjögren syndrome diagnosis	Diagnostic Pathology, 10, 103-108, 2015
68	Y. Niida	遺伝子医療センター	CHIPS for genetic testing to improve a regional clinical genetic service	Clinical Genetics, 88, 155-160, 2015
69	Y. Niida	遺伝子医療センター	CHIPS to disseminate the genetic testing of rare diseases	Gene Technology, 4, 127, 2015
70	D. Koya	糖尿病・内分泌内科学	Epidermal growth factor receptor signaling and the progression of diabetic nephropathy	Journal of Diabetes Investigation, 6, 519-521, 2015
71	Y. Niida	遺伝子医療センター	Finding gene mutations by the enzyme: Chips for a simple and highly sensitive enzyme mismatch cleavage method	Enzyme Engineering, 4, 131, 2015
72	Y. Niida	遺伝子医療センター	How do you analyze a mutation of the gene consisting of one hundred exons?	Advanced Techniques in Biology & Medicine, 3, 138, 2015
73	M. Fujita-Nakata	神経内科学	Intractable cough as Characteristic symptom of neuromyelitis optica and neuromyelitis optica spectrum disorder.	Multiple Sclerosis Journal, 22, 576-577, 2015

計 73件

- (注) 1 当該特定機能病院に所属する医師等が申請の前年度に発表した英語論文のうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断されるものを七十件以上記入すること。七十件以上発表を行っている場合には、七十件のみを記載するのではなく、合理的な範囲で可能な限り記載すること。
- (注) 2 報告の対象とするものは、筆頭著者の所属先が当該特定機能病院である論文であり、査読のある学術雑誌に掲載されたものに限るものであること。ただし、実体上、当該特定機能病院を附属している大学の講座等と当該特定機能病院の診療科が同一の組織として活動を行っている場合においては、筆頭著者の所属先が大学の当該講座等であっても、論文の数の算定対象に含めるものであること(筆頭著者が当該特定機能病院に所属している場合に限る)。
- (注) 3 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。
- (注) 4 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(2) 高度の医療技術の開発及び評価を行うことの評価対象とならない論文(任意)

番号	発表者氏名	発表者の所属	題名	雑誌名
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				
15				
16				
17				
18				
19				
20				

(注) 1 当該医療機関に所属する医師等が申請の前年度に発表したもののうち、高度の医療技術の開発及び評価に資するものと判断される主なものを記入すること。

(注) 2 「発表者の所属」については、論文に記載されている所属先をすべて記載すること。

(注) 3 「雑誌名」欄には、「雑誌名」「巻数・号数」「該当ページ」「出版年」について記載すること。

(様式第 3)

高度の医療技術の開発及び評価を行う能力を有することを証する書類

3 高度の医療技術の開発及び評価の実施体制

(1) 倫理審査委員会の開催状況

① 倫理審査委員会の設置状況	有・無
② 倫理審査委員会の手順書の整備状況	有・無
・ 手順書の主な内容 ・ 学校法人金沢医科大学における人を対象とする医学系研究に関する倫理規程 ・ 金沢医科大学における人を対象とする医学系研究に関する倫理審査委員会規程 ・ 金沢医科大学ヒトゲノム・遺伝子解析研究に関する規定	
③ 倫理審査委員会の開催状況	年12回

(注) 1 倫理審査委員会については、「臨床研究に関する倫理指針」に定める構成である場合に「有」に○印を付けること。

(2) 利益相反を管理するための措置

① 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の設置状況	有・無
② 利益相反の管理に関する規定の整備状況	有・無
・ 規定の主な内容 産学官連携活動における利益相反を適正に管理することを目的とし、教職員等に対し、臨床研究等を開始する前、厚生労働科学研究費補助金の交付申請書の提出前等に、利益相反自己申告書を提出することを義務付けている。申告書が提出されると、利益相反マネジメント委員会にて、利益相反に関する情報収集、分析、検討、審査が行われ、評価・報告がなされる。また、必要に応じて、モニタリングを行い、研究者が適正な臨床研究等を実施することができるよう利益相反のマネジメントを行うこととしている。	
③ 利益相反を審査し、適当な管理措置について検討するための委員会の開催状況	年2回

(3) 臨床研究の倫理に関する講習等の実施

① 臨床研究の倫理に関する講習等の実施状況	年2回
・ 研修の主な内容 治験・臨床研究の倫理に関する教育研修会 C-CAM臨床研究セミナー (全11回)	

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

1 研修の内容

本院の後期臨床研修では、総合診療医（家庭医）、専門医など個々が目指すキャリアに柔軟に対応するプログラムを準備している。医師として本院で働きながら大学院への進学も可能であり、海外留学についても積極的に支援を行っている。2年間の初期臨床研修で修得した知識と技術を基礎に、各診療科に関連した学会の認定医・専門医・指導医の資格を取得した教授、准教授、講師などの強力な指導体制のもと、さらに高度な医療を身につけることを目指している。

具体的には、各診療科毎に独自の研修プログラムを組んでおり、内科系・外科系で研修期間は異なる。各診療科における研修内容及び到達目標は、認定医・専門医・指導医の取得である。本院で取得可能な認定医・専門医・指導医の種類は98種類にもものぼり、高い専門性からジェネラルフィジシャン（総合診療医）の知識・技能の習得まで、あらゆる将来の選択が可能である。後期臨床研修においてもローテート枠を設けており、また、専門科間、職種間のカンファレンスが日常的に行われている。

各診療科における①後期臨床研修プログラムの目的、②後期臨床研修プログラム修了後のコース、③時間割、研修内容と到達目標、④取得できる認定医、専門医（必要な期間）資格とその取得にかかわる概要、⑤週間スケジュール等の詳細については、本院臨床研修センターが作成する「金沢医科大学病院臨床研修プログラム」（職臨床研修医・後期臨床研修医）の冊子に示している。

http://www.kanazawa-med.ac.jp/~hospital/recruit/trainee/digitalbook_h26/#page=1

なお、大学院への進学については、平成24年度から初期臨床研修医2年次からの大学院進学が可能となり、後期臨床研修医採用の魅力となっている。

2 研修の実績

研修医の人数	112人
--------	------

(注) 前年度の研修医の実績を記入すること。

3 研修統括者

研修統括者氏名	診療科	役職等	臨床経験年数	特記事項
梶波 康二	循環器内科	診療科長	32年	
北山 道彦	心血管カテーテル治療科	診療科長	33年	
坂本 滋	心臓血管外科	診療科長	37年	
四方 裕夫	末梢血管外科	診療科長	34年	
中村 常之	小児循環器内科	診療科長	21年	
石丸 和彦	小児心臓血管外科	診療科長	14年	
梶 博久	呼吸器内科	診療科長	35年	
浦本 秀隆	呼吸器外科	診療科長	21年	

有沢 富康	消化器内科	診療科長	33年
堤 幹宏	肝胆膵内科	診療科長	34年
伊藤 透	消化器内視鏡科	診療科長	32年
小坂 健夫	一般・消化器外科	診療科長	36年
野口 昌邦	乳腺・内分泌外科	診療科長	39年
横山 仁	腎臓内科	診療科長	35年
宮澤 克人	泌尿器科	診療科長	32年
古家 大祐	内分泌・代謝科	診療科長	33年
正木 康史	血液・リウマチ膠原病科	診療科長	26年
松井 真	神経内科	診療科長	35年
飯塚 秀明	脳神経外科	診療科長	36年
森本 茂人	高齢医学科	診療科長	38年
元雄 良治	腫瘍内科	診療科長	36年
犀川 太	小児科	診療科長	28年
河野 美幸	小児外科	診療科長	34年
川崎 康弘	神経科精神科	診療科長	31年
川崎 康弘	心身医学科	診療科長	31年
利波 久雄	放射線科	診療科長	37年
的場 宗孝	放射線治療科	診療科長	22年
川原 範夫	整形外科	診療科長	33年
川上 重彦	形成外科	診療科長	38年
佐々木 洋	眼科	診療科長	29年
三輪 高喜	耳鼻咽喉科	診療科長	33年
辻 裕之	頭頸部・甲状腺外科	診療科長	35年

望月 隆	皮膚科	診療科長	34年
笹川 寿之	産科婦人科	診療科長	33年
土田 英昭	麻酔科	診療科長	37年
影近 謙治	リハビリテーション医学科	診療科長	29年
和藤 幸弘	救命救急科	診療科長	33年
湊 宏	病理診断科	診療科長	26年
飯沼 由嗣	感染症科	診療科長	28年
瀬上 夏樹	歯科口腔科	診療科長	37年
浅地 孝能	健康管理センター	センター長	32年
元雄 良治	集学的がん治療センター	センター長	36年
小林 淳二	総合診療センター	センター長	29年
			年

(注) 1 医療法施行規則第六条の四第一項又は第四項の規定により、標榜を行うこととされている診療科については、必ず記載すること。

(注) 2 内科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(注) 3 外科について、サブスペシャリティ領域ごとに研修統括者を配置している場合には、すべてのサブスペシャリティ領域について研修統括者を記載すること。

(様式第 4)

高度の医療に関する研修を行わせる能力を有することを証する書類

4 医師、歯科医師以外の医療従事者等に対する研修

① 医師、歯科医師以外の医療従事者に対する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ①カテーテル治療の理解と普及（胸痛ホットライン研究会・地域医療連携事務課 ②治験・臨床研究の倫理に関する教育研修 ③質の向上研修（免疫チェックポイント阻害剤の副作用マネジメント） ・研修の期間・実施回数 ①平成27年10月23日（金）18：00～21：00 年1回 ②平成28年2月15日（金）17：30～19：00 年1回 ③平成28年3月30日（水）16：00～17：00 年1回 ・研修の参加人数 ①150名 ②144名 ③45名
② 業務の管理に関する研修の実施状況（任意）
・研修の主な内容 ・研修の期間・実施回数 ・研修の参加人数
③ 他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況
・研修の主な内容 ①がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会 ②エンド・オブ・ライフ・ケア（終末期看護）研修 ・研修の期間・実施回数 ①平成27年6月27日～28日、10月24日～25日、平成28年2月27日～28日 ②平成27年8月5日～6日 ・研修の参加人数 ①総数103名 ②39名

(注) 1 高度の医療に関する研修について記載すること。

(注) 2 「③他の医療機関に所属する医療関係職種に対する研修の実施状況」については、医療法施行規則第六条の四第四項の規定に基づき、がん、循環器疾患等の疾患に関し、高度かつ専門的な医療を提供する特定機能病院についてのみ記載すること。また、日本全国の医療機関に勤務する医療従事者を対象として実施した専門的な研修を記載すること。

(様式第 5)

診療並びに病院の管理及び運営に関する諸記録の管理方法に関する書類

計画・現状の別	1. 計画 (2.) 現状
管理責任者氏名	病院長 松本 忠美
管理担当者氏名	事務局次長/病院事務部事務長 山下 和夫

		保 管 場 所	管 理 方 法
診療に関する諸記録	規則第二十二條の三第二項に掲げる事項	病院日誌	病院管理課
		各科診療日誌	各診療科
		処方せん	薬剤部
		手術記録	電子カルテ、看護部
		看護記録	電子カルテ、看護部
		検査所見記録	電子カルテ
		エックス線写真	中央放射線部
		紹介状	電子カルテ
		退院した患者に係る入院期間中の診療経過の要約及び入院診療計画書	電子カルテ
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第二十二條の三第三項に掲げる事項	従業者数を明らかにする帳簿	病院職員課
		高度の医療の提供の実績	医事課
		高度の医療技術の開発及び評価の実績	医事課
		高度の医療の研修の実績	病院職員課
		閲覧実績	病院管理課
		紹介患者に対する医療提供の実績	地域医療連携事務課
		入院患者数、外来患者及び調剤の数を明らかにする帳簿	病院管理課、薬剤部
	規則第一條の十一第一項に掲げる事項	医療に係る安全管理のための指針の整備状況	医療安全課
		医療に係る安全管理のための委員会の開催状況	医療安全課
		医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	医療安全課
		医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の状況	医療安全課
			【診療録】 患者登録は初回来院時の登録番号(7桁)を基準として、1患者1番号で生涯有効性を採用し、1患者の入院と外来の全病歴を電子媒体により保存・管理している。
			本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第一条の十一	院内感染対策のための指針の策定状況	医療安全課
	規則第一条の十一	院内感染対策のための委員会の開催状況	医療安全課
	規則第一条の十一	従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	医療安全課
	規則第二条	感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の実施状況	医療安全課
	規則第一条	医薬品安全管理責任者の配置状況	医療安全課
	規則第三条	従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	薬剤部
	規則第三条	医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	薬剤部
	規則第三条	医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	薬剤部
	規則第三条	医療機器安全管理責任者の配置状況	ME部、医療安全課
	規則第三条	従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	ME部
	医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	ME部	
	医療機器の安全使用のために必要となる情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	ME部	

本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。

		保管場所	管理方法
病院の管理及び運営に関する諸記録	規則第九条の二十三第一項第一号から第十五号までに掲げる事項	医療安全管理責任者の配置状況	医療安全課
		専任の院内感染対策を行う者の配置状況	医療安全課
		医薬品安全管理責任者の業務実施状況	医療安全課
		医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	病院職員課
		診療録等の管理に関する責任者の選任状況	病院職員課
		医療安全管理部門の設置状況	医療安全課
		高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況	【計画書提出】
		未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況	【計画書提出】
		監査委員会の設置状況	【計画書提出】
		入院患者が死亡した場合等の医療安全管理部門への報告状況	医療安全課
		他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況	医療安全課
		当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況	医療安全課
		医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況	医療安全課
		職員研修の実施状況	【計画書提出】
管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況	【計画書提出】		

本学における文章保存規程に定められた期間、施錠できる書庫にて保管。

(注)「診療に関する諸記録」欄には、個々の記録について記入する必要はなく、全体としての管理方法の概略を記入すること。また、診療録を病院外に持ち出す際に係る取扱いについても記載すること。

(様式第 6)

病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法に関する書類

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧方法

計画・現状の別	1. 計画	② 現状
閲覧責任者氏名	医療情報部長 堀 有行 (診療記録)	
閲覧担当者氏名	情報管理課長 山野 清一 (診療記録)	
閲覧の求めに応じる場所	病院情報管理課事務室内	
閲覧の手続の概要 電子カルテシステム稼働 (平成 12 年) 以前の紙の診療録の貸出しは、貸出日の前日までに貸出依頼票を提出し、医療情報部長の許可を受けて行ないます。 貸出期間は 2 日以内ですが、死亡患者については 7 日以内となっています。 当該患者の診療のため診療録が必要となった場合を除き診療録の閲覧場所は情報管理課事務室内で行ないます。診療録の利用に当たり、管理場所以外へ診療録を移動すること、また利用者間で診療録をまた貸しすることは「診療録貸出規程」にて禁止事項となっております。		

(注) 既に医療法施行規則第 9 条の 20 第 5 号の規定に合致する方法により記録を閲覧させている病院は現状について、その他の病院は計画について記載することとし、「計画・現状の別」欄の該当する番号に○印を付けること。

○病院の管理及び運営に関する諸記録の閲覧の実績

前年度の総閲覧件数	延	0	件
閲覧者別	医 師	延	0 件
	歯 科 医 師	延	0 件
	国	延	0 件
	地方公共団体	延	0 件

(注) 特定機能病院の名称の承認申請の場合には、必ずしも記入する必要はないこと。

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 1 項各号に掲げる医療に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療に係る安全管理のための指針の整備状況	有・無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <p>医療事故防止に関する安全管理体制の指針（以下「指針」という。）は医療事故防止に関する安全管理体制、安全管理体制に関する関係規程及び医療事故防止に関する共通及び部門マニュアルの 3 部構成をとっている。</p> <p>指針は、医療事故防止に関する病院の方針、用語の定義、医療事故の防止体制、医療事故発生時の対応、インシデントレポートに関する基本事項、医療事故防止規程・マニュアルの整備、医療事故防止に関する職員の研修、患者暴力行為への対応、安全管理体制に関する組織図等、医療事故報告書様式など医療事故防止に係る基本的事項を収載している。</p>	
② 医療に係る安全管理のための委員会の設置及び業務の状況	
<p>・ 設置の有無（有・無）</p> <p>・ 開催状況：年 24 回</p> <p>・ 活動の主な内容：</p> <p>* 医療安全対策小委員会：月 1 回開催（第 3 水曜日）</p> <p>医療安全対策小委員会は医療安全管理室長を委員長に配し、医療安全管理者、内科系・外科系・小児科・麻酔科医師、看護師、薬剤師、医療技術職員及び事務職員の 21 名で構成され、医療安全管理者が決めたテーマや各部門に共通するようなインシデント事例を抽出して事例検討を行う。小委員会では、インシデントに至る状況、要因、影響等について、徹底的に分析・検討し、改善策や再発防止対策を洗い出す。また、その結果を医療安全対策委員会に小委員会からの事例報告として報告・提案・注意喚起するとともに、システムの改善で防止できるものであれば担当部署に委員会として改善を要望する。</p> <p>* 医療安全対策委員会：月 1 回開催（第 4 火曜日）</p> <p>医療安全対策委員会は各部門・各部署の部門リスクマネージャー（病棟医長、部長、看護師長、技師長、課長相当職）80 名で構成されている。インシデント情報の収集結果、状況別・原因別集計表及び医療安全対策小委員会から報告されるインシデント事例の分析・検討結果及び改善策、医療問題検討委員会で検討された医療事故に関してそれぞれの部門・部署に周知すると共に情報を共有し、事故の防止に努める。さらに、診療科、病棟、薬剤部、ME 部他関連する部署のスタッフが、それぞれの部署でのインシデント事例について、それぞれの職種の立場を超えて分析・検討するインシデント分析検討会を定期的に行っており、その内容について毎回 2 グループづつ代表者が報告する。他に指針・マニュアルの改正、医療安全院内ラウンド、全体職員・リスクマネージャー研修会、医療安全アンケート、その他医療安全に係る事項についての審議・結果報告を行う。</p> <p>委員会の議事録及び資料は、各委員及び全リスクマネージャーに配付し所属職員全員に周知するよう回覧を行い、読んだ者はサインするようにしている。他に、電子カルテ上とイントラネット「病院職員のページ」にも委員会の議事録を掲載している。</p>	

③ 医療に係る安全管理のための職員研修の実施状況	年 2回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会（第1回目）</p> <p>開催日 平成27年6月9日（火）</p> <p>テーマ 病院安全管理の視点からみた抗がん薬曝露対策</p> <p>講師 杉浦 伸一先生 （名古屋大学大学院医学系研究科特任研究部門 医療行政学 特任准教授）</p> <p>特定機能病院としての医療安全管理体制を確保するための職員研修会（第2回目）</p> <p>開催日 平成27年10月20日（火）</p> <p>テーマ 院内医療事故調査制度について</p> <p>講師 小坂 健夫 先生 （金沢医科大学病院 副院長、医療安全部長） 中川 淳 先生 （金沢医科大学病院 医療安全管理室長）</p>	
④ 医療機関内における事故報告等の医療に係る安全の確保を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機関内における事故報告等の整備（<input checked="" type="radio"/>有・<input type="radio"/>無）</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>医療安全管理者が、医療事故報告書とインシデントレポートの報告内容を確認するため現場状況調査を行い事象の分析を通して問題点を把握する。また、各部署より医療安全に関する業務改善計画を年3回（①初期計画（5月）、②中間報告（10月）、③最終評価（3月））提出してもらい、その都度評価と改善策の検討を行っている。さらに、院内ラウンドとリスクマネージャーカンファレンスを実施し、各部署から提出された業務改善計画の実施状況の確認を行っている。</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 1 号に掲げる院内感染対策のための体制の確保に係る措置

① 院内感染対策のための指針の策定状況	(有) 無
<p>・ 指針の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染に対策に関する基本的な考え方2. 院内感染対策のための委員会およびその他組織に関する基本的事項3. 院内感染対策のための職員等に対する研修に関する基本方針4. 感染症の発生状況の報告に関する基本方針5. 院内感染発生時の対応に関する基本方針6. 患者等に対する当該指針の閲覧に関する基本方針7. その他院内感染対策推進のために必要な基本方針	
② 院内感染対策のための委員会の開催状況	年 12 回
<p>・ 活動の主な内容：下記の事項を審議する</p> <ol style="list-style-type: none">1. 院内感染事例への対応に関する事項2. サベイングスールに基づく、院内感染症発生状況の把握と対策に関する事項3. 抗菌薬適正使用に関する事項4. 院内感染対策に係る緊急事態（重大な感染事例発生等）への対応に関する事項5. 院内感染防止対策に係る教育啓発に関する事項6. 感染対策マニュアルの改訂に関する事項7. その他、院内感染防止対策に関する協議検討報告事項 <div data-bbox="1134 734 1430 882" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"><p>【委員会の開催】</p><ul style="list-style-type: none">・ 月 1 回年間12回の定例開催・ 委員数 30名・ 平均出席率 83.7%</div>	
③ 従業者に対する院内感染対策のための研修の実施状況	年 9 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>【全職員対象】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 「当院における院内感染対策の課題と対応」 開催日時：平成27年5月26日（月） 「ノロウイルスアウトブレイク対応について」 講師：飯沼由嗣 感染制御室室長 / 野田洋子 感染制御室課長（感染管理認定看護師）2) 「流行性角結膜炎（EKC）について」「流行性感染症と基本的な対策」 「ノロウイルスとインフルエンザ感染対策の要点」 開催日時：平成27年12月16日（水） 講師：柴田奈央子 眼科外来医長 / 薄田大輔 感染制御室副室長 / 上野佳子 看護部感染管理認定看護師3) 「感染症診療のロジック」 開催日時：平成28年 3月11日（金） 講師：大曲貴夫 国立国際医療研究センター病院 国際感染症センター長・国際診療部長 <p>【新採用者対象】</p> <ol style="list-style-type: none">1) 全員「新入職員オリエンテーション」 開催日時：平成27年4月2日2) コメディカル対象 開催日時：平成27年4月2日3) 研修医対象 開催日時：平成27年4月7日、10日4) 新人看護職員研修 開催日時：平成27年4月6日、8日 <p>【その他】</p> <ol style="list-style-type: none">1) リンク委員・リンクス 開催日時：平成27年5月11日、11月27日2) 帰局職員及び中途採用者対象 開催日時：平成27年10月8日 <p>※その他、看護部依頼の研修、産休休業明け看護職員、各フロア向け研修等はその都度必要時行っている</p>	
④ 感染症の発生状況の報告その他の院内感染対策の推進を目的とした改善のための方策の状況	
<p>・ 病院における発生状況の報告等の整備 ((有) 無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <ol style="list-style-type: none">1. 感染制御室の設置と感染対策の実働部隊である感染対策チーム (ICT) の組織化2. 感染症事例の情報の感染制御室への集約と、迅速な現場への指示および実施状況の確認。3. 毎週全病棟対象の ICT ラウンドの実施による感染対策遵守状況の確認と改善のための助言。4. デバイス関連（血管留置カテーテル、人工呼吸器）サベイングスの導入と関係部署への定期的なフィードバック。5. 耐性菌サベイングスの実施によるアウトブレイクの早期発見、感染症患者に対する感染対策の指示6. すべての職業感染事例に対する対応と予防対策への助言、針刺し防止器材の積極的な導入と評価。7. 病院職員を対象とした、ワクチン接種、抗体価測定8. 月例の感染対策上問題となった事例の報告と全部署への周知徹底9. 全職員対象の感染対策講演会の他、職種別、部署別など様々な教育啓発活動の実践。	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 2 号に掲げる医薬品に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医薬品安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医薬品の安全使用のための研修の実施状況	年 4 回
<p>・ 研修の主な内容：</p> <p>研修開催日 研修内容</p> <p>4月 7日 麻薬及び向精神薬の処方と取扱い</p> <p>5月29日 麻薬及び向精神薬の取り扱い</p> <p>5月29日 インスリン、抗生物質を中心にハイリスク薬の取り扱い</p> <p>6月 9日 病院安全管理の視点から見た抗がん薬暴露対策</p>	
③ 医薬品の安全使用のための業務に関する手順書の作成及び当該手順書に基づく業務の実施状況	
<p>・ 手順書の作成 (有・無)</p> <p>・ 業務の主な内容：</p> <p>各担当者が以下の項目について手順書に基づき業務の実施状況の確認を行っている。</p> <ul style="list-style-type: none">・ 医薬品の採用・購入に関する事項・ 医薬品の管理に関する事項 (麻薬等の管理方法等)・ 患者の持参薬歴情報の収集方法・ 処方箋の記載方法・ 調剤方法及び監査方法・ 患者に対する与薬や服薬指導に関する事項・ 医薬品の安全使用に係る情報の取扱いに関する事項・ 他施設 (病院等、薬局等) との連携に関する事項	
④ 医薬品の安全使用のために必要となる未承認等の医薬品の使用の情報その他の情報の収集その他の医薬品の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医薬品に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容：</p> <p>PMDA (医薬品医療機器総合機構) メディナビへの登録、メーカー別添付文書集の最新版を常時収集、インターネット (メーカー・卸)、MR・MSより紙ベースで情報収集 (添付文書改定時) 等からの情報を医薬品情報として各部署、医局へメール配信し、情報を見た確認印又はサインを記入した表書きを薬剤部医薬品情報管理室へ返却、保管している。(返却がない場合は督促を行う。)</p>	

(様式第 6)

規則第 1 条の 11 第 2 項第 3 号に掲げる医療機器に係る安全管理のための体制の確保に係る措置

① 医療機器安全管理責任者の配置状況	有・無
② 従業者に対する医療機器の安全使用のための研修の実施状況	年 57 回
<p>・ 研修の主な内容： 機器研修はH19.3.30医政局通知（有効性、安全性、使用方法、保守、不具合時の対応、法令上の遵守事項。2回／年）に従っている。人工呼吸器等の主要ME機器については医療安全部、看護部、ME部（当院の機器管理部門）等が協力、連携し機器研修を実施している。（平成27年度の機器毎の研修等の実施回数 57回、参加延べ人数約687名）</p>	
③ 医療機器の保守点検に関する計画の策定及び保守点検の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る計画の策定 (有・無)</p> <p>・ 保守点検の主な内容： 人工心肺装置、補助循環装置、人工呼吸器、血液浄化装置、除細動器、保育器、高エネルギー放射線装置、診療用放射線照射装置及びその他主要ME機器の年間点検計画を策定し機器マニュアル、メーカー指示（点検内容、頻度）に従って各機器のチェックシートを作製し臨床工学技士が通常点検を実施している。また人工呼吸器は通常点検に加えてメーカー推奨の使用時間毎にメーカー定期点検を実施している。</p>	
④ 医療機器の安全使用のために必要となる未承認等の医療機器の使用の状況その他の情報の収集その他の医療機器の安全使用を目的とした改善のための方策の実施状況	
<p>・ 医療機器に係る情報の収集の整備 (有・無)</p> <p>・ その他の改善のための方策の主な内容： 機器メーカー、臨床工学技士会、機器等納入業者及び医薬品医療機器総合機構（PMDA）のホームページ、またはPMDAからのメール配信サービスより各種関連情報を入手し関連部門へメール、通達回覧し、必要時には担当ME技士及びメーカーSEにより直接、当該部門で改善指導を行っている。全体に関わる事案については医療安全委員会議（各部門リスクマネージャ全員出席）で報告、説明、注意喚起等を実施している。また機器管理部門（当院ではME部）では定期的に部内で機器保守管理検討会を実施し医療機器の効果的な保守点検管理に努めている。</p>	

(様式第 6)

規則第 9 条の 23 第 1 項第 1 号から第 15 号に掲げる事項の実施状況

① 医療安全管理責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<p>・ 医療安全管理責任者による医療安全管理部門、医療安全管理委員会、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者の統括状況</p> <p>当院の医療安全管理責任者は、医療安全を担当する副院長が就任しており、医療安全部長を兼務している。医療安全部には、医療安全管理者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理者、兼任リスクマネージャー等が所属しており、医療安全管理責任者が中心となり、週 1 回程度カンファレンスを実施し、院内における医療安全対策に対する取組の評価を行っている。また、医療安全対策委員会、医療問題検討委員会の副委員長を兼任しており、医療事故防止や医療安全改善事項等について審議している。</p>	
② 専任の院内感染対策を行う者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 (2 名) ・ 無
<p>③ 医薬品安全管理責任者の業務実施状況</p> <p>・ 医薬品に関する情報の整理・周知に関する業務の状況</p> <ul style="list-style-type: none">① 医薬品の安全使用に関わる手順書の作成、改訂② 従業員に対する医薬品の安全使用のための研修会の実施③ 医薬品の業務手順書に基づく業務実施内容の確認と改善策の実施④ 医薬品の安全使用のために必要となる情報の収集⑤ その他の医薬品の安全確保の目的と改善策の実施 <p>・ 未承認等の医薬品の使用に係る必要な業務の実施状況 【医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画書（様式第 8）提出】</p> <p>・ 担当者の指名の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)</p>	
④ 医療を受ける者に対する説明に関する責任者の配置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<p>・ 医療の担い手が説明を行う際と同席者、標準的な説明内容その他説明の実施に必要な方法に関する規程の作成の有無 (<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無)</p> <p>・ 規程の主な内容： 説明と同意は口頭での説明と同時に文章（同意書）で明示し、医療側及び患者側の双方で確認・保管する。説明には担当看護師が立会し同意書に署名する。さらに、重要な説明には、医師、看護師とは異なる立場の医療関係者が立ち会う、また、患者の代理人の同席を認める。</p>	
⑤ 診療録等の管理に関する責任者の選任状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無
<p>・ 活動の主な内容： 診療記録及び電子カルテシステム等の診療における適正な運用管理を行う。また、臨床指標作成、分析、評価を行う。</p>	
⑥ 医療安全管理部門の設置状況	<input checked="" type="radio"/> 有 ・ 無

・所属職員：専従（3）名、専任（ ）名、兼任（2）名

うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（2）名

うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（ ）名

※専従医師は未配置のため、平成30年度までに選任を予定している。

・活動の主な内容：

1. 各部門の医療安全対策の実施状況の評価を行い、業務改善計画書を作成する。計画書に基づく実施状況及び評価結果を記録し保管を行う。
2. 院内医療安全の推進に係る医療安全対策委員会、医療安全対策小委員会、医療問題検討委員会、医療事故調査委員会等で用いられる資料及び議事録の作成保存、庶務に関すること。
3. インシデント及びアクシデントレポート等に関する集計・分析・調査を行い、医療事故防止のための改善策の策定・実施及び周知を行う。
4. 医療事故発生時の対応及び原因究明、診療情報の記載が適切に実施されていることを確認すると共に指導を行う。
5. 院内ラウンドを実施して、医療安全に関する周知状況の調査及び部署の改善事項について必要な指導を行う。
6. 医療安全管理体制を確保するための職員研修の企画・運営を行い、実績を記録する。また、職員の医療安全向上状況に関する意識の認識についてモニタリングを平時から行う。
7. 医療安全対策委員会の構成員及び必要に応じて各部門の医療安全管理の担当者等を参加させて医療安全対策の取組に係る評価等を行うカンファレンスを週1回程度開催する。
8. 医療安全管理部門の構成員による医療安全対策推進に関するカンファレンスを週1回程度開催する。
9. 医療安全相談に関し、患者等の相談件数及び相談内容、相談後の取扱いを記録する。
10. 医療の安全に関する最新情報及び警鐘事例について、職員へ周知を行う。
11. その他、医療安全対策の推進に係る指導と連絡調整等に関すること。

※平成二八年改正省令附則第四条第一項及び第二項の規定の適用を受ける場合には、専任の医療に係る安全管理を行う者が基準を満たしていることについて説明すること。

⑦ 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の状況

※医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画書（様式第8）の提出あり

・高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）

・高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）

・規程の主な内容：作成中（ガイドラインとの適合性、既存技術との優位性、医師の経験、体制、設備、患者の同意、利益相反）

・規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）

・高難度新規医療技術評価委員会の設置の有無（有・無）

⑧ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の状況

※医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画書（様式第8）の提出あり

- ・ 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門の設置の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程の作成の有無（有・無）
- ・ 規程の主な内容：

- ・ 規程に定められた事項の遵守状況の確認の有無（有・無）
- ・ 未承認新規医薬品等評価委員会の設置の有無（有・無）

⑨ 監査委員会の設置状況

有・無

※医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画書（様式第8）の提出あり

- ・ 監査委員会の開催状況：年 回
- ・ 活動の主な内容：
- ・ 監査委員会の業務実施結果の公表の有無（有・無）
- ・ 委員名簿の公表の有無（有・無）
- ・ 委員の選定理由の公表の有無（有・無）
- ・ 公表の方法：

監査委員会の委員名簿及び選定理由（注）

氏名	所属	委員長 (○を付す)	選定理由	利害関係	委員の要件 該当状況
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	
				有・無	

(注) 「委員の要件該当状況」の欄は、次の1～3のいずれかを記載すること。

1. 医療に係る安全管理又は法律に関する識見を有する者その他の学識経験を有する者
2. 医療を受ける者その他の医療従事者以外の者（1.に掲げる者を除く。）
3. その他

<p>⑩ 入院患者が死亡した場合などの医療安全管理部門への報告状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・入院患者が死亡した場合の医療安全管理部門への報告状況：年 330 件 ・上記に掲げる場合以外の場合であって、通常の経過では必要がない処置又は治療が必要になったものとして特定機能病院の管理者が定める水準以上の事象が発生したとき当該事象の発生の事実及び発生前の状況に関する医療安全管理部門への報告状況：年 50 件 ・医療安全管理委員会の活動の主な内容 <ul style="list-style-type: none"> ・当院における安全管理の体制の確保及び推進を図るため設置され、各部門の安全管理のための責任者で構成される。毎月 1 回程度開催されるとともに、重大な問題が発生した場合は適宜開催される。
<p>⑪ 他の特定機能病院の管理者と連携した相互立入り及び技術的助言の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・他の特定機能病院への立入り（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：順天堂大学医学部附属順天堂医院）・無） ・他の特定機能病院からの立入り受入れ（<input checked="" type="radio"/>有）（病院名：順天堂大学医学部附属順天堂医院）・無） ・技術的助言の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・ハイリスク薬の保管方法（施錠等）についての周知 ・患者が持込みした医療機器メンテナンスの実施
<p>⑫ 当該病院内に患者からの安全管理に係る相談に適切に応じる体制の確保状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・体制の確保状況 <p>患者相談業務に関する事務取扱要領を整備し、相談内容に応じて「受診相談窓口」、「医療福祉相談窓口」、「医療安全相談窓口」、「計算窓口」の 4 つ窓口で対応を行っている。それぞれの窓口の各担当部署、設置場所、担当者についてのポスターを院内 10 個所の掲示板に表示している他、入院案内パンフレット、病院ホームページ等にも明記している。</p>
<p>⑬ 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口の状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・情報提供を受け付けるための窓口の設置の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口を提供する情報の範囲、情報提供を行った個人を識別することができないようにするための方策その他窓口の設置に関しする必要な定めの有無（<input checked="" type="radio"/>有・無） ・窓口及びその使用方法についての従業者への周知の有無（<input checked="" type="radio"/>有・無）
<p>⑭ 職員研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・特定機能病院承認要件見直しの内容解説及び自院での対応状況についての研修会を予定している。
<p>⑮ 管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者及び医療機器安全管理責任者のための研修の実施状況</p>
<ul style="list-style-type: none"> ・研修の実施状況 <ul style="list-style-type: none"> ・厚生労働省が指定する研修会を受講予定。

(様式第 7)

専門性の高い対応を行う上での取組みに関する書類（任意）

1 病院の機能に関する第三者による評価

① 病院の機能に関する第三者による評価の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・評価を行った機関名、評価を受けた時期 病院機能評価機構、平成 24 年 1 月 22 日認定	

(注) 医療機能に関する第三者による評価については、日本医療機能評価機構等による評価があること。

2 果たしている役割に関する情報発信

① 果たしている役割に関する情報発信の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・情報発信の方法、内容等の概要 病院の理念、基本方針や自院の役割、診療機能等を病院広報誌やホームページで情報発信している。	

3 複数の診療科が連携して対応に当たる体制

① 複数の診療科が連携して対応に当たる体制の有無	<input checked="" type="radio"/> 有・無
・複数の診療科が連携して対応に当たる体制の概要 電子カルテによる診療科の他科外来への対診依頼体制	

(様式第 8)

金医大病管第 21 号
平成 28 年 9 月 9 日

厚生労働大臣

殿

学校法人金沢医科大学
理事長 竹越 襄 (印)

医療に係る安全管理のための体制整備に関する計画について

標記について、次のとおり提出します。

記

1. 医療安全管理責任者を配置するための予定措置

措置済み

2. 医薬品安全管理責任者の活動を充実するための予定措置

措置済み

3. 医療を受ける者に対する説明に関する責任者を配置するための予定措置

措置済み

4. 説明の実施に必要な方法に関する規程を作成するための予定措置

措置済み

5. 診療録等の管理に関する責任者を配置するための予定措置

措置済み

6. 規則第9条の23第1項第10号に規定する医療に係る安全管理に資する措置を実施するための予定措置

措置済み

7. 医療安全管理の適正な実施に疑義が生じた場合等の情報提供を受け付けるための窓口を設置するための予定措置

措置済み

8. 医療安全管理部門による医療に係る安全の確保に資する診療の状況の把握及び従業員の医療の安全に関する意識の向上の状況の確認実施のための予定措置

措置済み

9. 高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

- ・ 現行の病院臨床倫理委員会を医療安全部に移管及び委員会規程の改訂を平成28年度中に予定。

10. 高難度新規医療技術を用いた医療を提供する場合に、従業員が遵守すべき事項及び高難度新規医療技術の提供の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

- ・ 現行の病院臨床倫理委員会を医療安全部に移管及び委員会規程の改訂を平成28年度中に予定。

11. 未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門を設置するための予定措置

- ・ 現行の医薬品等臨床研究倫理審査委員会を医療安全部に移管し、委員会規程を改訂する予定。

12. 未承認新規医薬品等を用いた医療を提供する場合に、従業者が遵守すべき事項及び未承認新規医薬品等の使用条件を定め、使用の適否等を決定する部門が確認すべき事項等を定めた規程を作成するための予定措置

- ・ 現行の医薬品等臨床研究倫理審査委員会を医療安全部に移管及び委員会規程の改訂を平成28年度中に予定。

13. 監査委員会を設置するための予定措置

- ・ 監査委員会規程の策定及び委員の選任を平成28年度中に予定。

14. 他の特定機能病院の管理者との連携による立入り及び技術的助言を遂行するための予定措置

措置済み

15. 職員研修を実施するための予定措置

- ・ 特定機能病院承認要件見直しの内容解説及び自院での対応状況についての研修会を平成28年度中に開催予定。

16. 管理職員研修（医療に係る安全管理のための研修、管理者、医療安全管理責任者、医薬品安全管理責任者、医療機器安全管理責任者向け）を実施するための予定措置

- ・厚生労働省が指定する研修会を平成30年度までに受講を予定。

17. 医療安全管理部門の人員体制

- ・所属職員：専従（8）名、専任（ ）名、兼任（8）名
 - うち医師：専従（ ）名、専任（ ）名、兼任（2）名
 - うち薬剤師：専従（1）名、専任（ ）名、兼任（1）名
 - うち看護師：専従（2）名、専任（ ）名、兼任（2）名

その他

- | | |
|------------|--------------|
| 保安担当：専従（2） | 放射線技師：専任（1） |
| 事務：専従（3） | 理学療法士：専任（1） |
| | 臨床工学技士：専任（1） |

18. 医療安全管理部門の専従職員を配置するための予定措置

- ・専従医師は未配置のため、平成30年度までに選任予定。